

熊本支部報

日本山岳会熊本支部。

No. 16 〒 〒 18年3月31日 発行 日本山岳会熊本支部 熊柿 「木木3丁目3-8(田坊) **18**(096)324-1200

印刷秀英印刷

目 次	
	1 会員近況58
会員 随想・・・・・・・・・・・・・・・・・・	o Danta
中央分水嶺を歩く・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	" MYCHIN
新日本山岳誌」覚書・・・・・・・・・	56 支部規約69

創立100周年を越えた今・・・

支部長(8190) 工藤文昭

昨年、日本山岳会は創立100周年を迎え、10月には東京品川の新高輪プリンスホテルにおいて、会員である皇太子殿下をはじめ、全国各支部会員約1000人近くが参加し、盛大かつ厳粛な記念式典が行われた。海外からもアメリカ山岳会会長他10ケ国27名の来資が出済され、伝統ある日本山岳会を実感出来た。

記念式典は各支部あるいは地区毎にも開催され、九州五支部合同の祝賀会は、宮崎支部の肝いりで霧島えびの高原ホテルで、これまた盛大に行われた。熊本支部からも16名の会員が参加し、会を盛り上げた。

さて、この2月には、「日本山岳会の新しい100年に向かって・・・」というテーマで支部長・事務局長合同会議が富士山麓で行われた。私が他の会合と重なり替わりに松本・田上両会員に出席してもらった。後刻会議資料をいただいたが、テーマに沿った決定的な結論が出ているとは思えなかった。会員数の減少や、会員の高齢化問題などはこれからの大きな問題になることは理解できたが、若年層の入会減少や熟年層の退会増には、さまざまな問題が潜んでいるように思えた。

高額会費もその原因の一つであるようだが、私は、会費に見合うだけの山岳会活 動、満足感を得ることが出来るなら現在の会費がさして高いとは思わない。

熊本支部でも、この数年、支部活動が県境踏査、日本山岳誌執筆作業、中央分水 嶺踏査と続き、これ等はそれぞれに立派な成果を収め、支部としての責任を果たす 事も出来た。しかし、これが多くの支部会員に満足感を与えかどうか。中央周辺で 開催される各種会活動に参加出来にくい地方会員は、支部活動に支えられている事 を思うと、これからどう活動していくのか真摯に取り組まなければならない。10 周年事業という大きな目標が達成された今だからこそ、次のステップへ飛躍する 支部活動が求められる。"08年の公益法人制度改革も、会活動の公益性認定が問題となる。会員同志内の活動にとどまらず、公益事業として一般社会とも関わった 活動も必要になり、これから大きな課題となるだろう。来年は支部設立50周年記 念の年になる。これに向けた準備にも、早急に取り掛らねばならない。

中央分水嶺を歩く

5421 本田誠也

平成17年11月20日、熊本支部が分担した中 央分水嶺の踏査が終わった。前年の3月23日 北側の起点となる九重山麓の瀬の本高原(102 7m) を歩き出してから、南側の終点となる白 髪岳山系の八ヶ峰山麓(663m)まで、約1年8 4月を要した。水平距離 1 4 4 \ (知離 180\ (知)

GPS測定点99(跏は13をむ)を28回に分け て延べ人数189人が歩いた。この間の分水 韻は、約40%が県内を通過し、約60%が 熊本・宮崎県境の九州脊梁山地を通過した。

踏査の計画段階では、GPS測定の効率化 を図るため2班編成で実施する予定だった。 しかし、平成16年秋に開催予定の全国支部懇 談会(鱗翅漿)を控え、上藤支部長はじめ全会 員が準備に追われていた。取り台えず、加藤 功 会員をチーフとする1班だけで踏査を始 めた。

(阿蘇外輪山) 瀬の本高原から阿蘇外輪山 (カルテラ)の裾野となる端辺原野、波野ヶ原、山 東原野へ連なる原野は日本離れのした広漠… 『日本百名山』の著者、深田久弥を感嘆させ た風景である。春4月、野焼きがすんだ原野 のあちこちに、キスミレ、ハルリンドウ、フ クジュソウの群落が一斉に開花して、踏査班 の目を楽しませてくれた。周回 128戦もある 阿蘇外輪山の内と外を結んで十二十七越四十 八峠」と呼ばれるほど多くの峠がある。分水 嶺を越す峠も、滝室坂(R-57)箱石峠(R-265) 大戸の口(R-265) 大村越(機髄) 黒岩峠(瞳)高 森峠(R-325トンネル) 中坂峠(ちゅうざか県道)崩土峠(廃 遺)長谷峠(髄)の他にも小さな乗越しが多い。 阿蘇外輪山は、西の立野火口瀬で切れて白川 を熊本平野へ流下させている他は、ほぼ完全 に世界最大のカルデラの縁を形成している。 カルデラ内に噴出した中央火口丘は、俗に阿 蘇五岳(高岳、中岳、根子岳、烏帽子岳、杵島岳或いは楢尾岳)と呼ばれ ているが、東端にある根子岳の火砕流堆積物 <u>が東</u>外輪山の一部を覆っている。ここで分水

嶺は、箱石峠(873m)から根子岳東峰(1408m) へ高度を上げる。比高差500m余の箱石尾根の 登りは、それまでの高原歩きではなく本格的 な登山となる。大戸の口(894m)から、分水嶺 は再び外輪山の縁に沿って南下する。スギ植 林地の境となる土塁に沿って進むと、森の中 にロストボールが沢山転がっている。高森倶 楽部ゴルフ場へ近かずいたらしい。人影もな い閑散としたコースを見下ろしながら進むと 土塁が切れてコース巡回路に出た。その上は 何と9番ホールのグリーンではないか! つぶさに検分したが、此処が分水嶺であるこ とに間違いはない。夫々途中で拾ってきたロ ストボールを杖で転がしてはしやいだ。

- ※読売新聞(2005.12.7)…分水嶺は9番ホールのグリーン」。 ゴルフィーの中 には、何も知らずに太平洋から有明海側に抜ける"中央分水嶺通過パット"を決めている [−] は、ここで遊び過ぎたか、大村越しを経てラ クダ山に着いたのは日没後になっていた 黒 岩峠の駐車場まで歩いて大戸の口へ引き返し 帰宅したのは夜半を過ぎていた。長谷峠で外 輪を離れた分水嶺は、緩やかに南下して高原 に点在する小集落を縫って山都町(雌馴、融画) 大野の国道 218号に至る。

(九州脊梁山地を行く) 大型連休の4月末 歩きやすい阿蘇を離れ、九州脊梁山地の北端 から殆ど登路のない黒峰へのコースを歩く。 起点は山都町大野の蘇陽高校前バス停(605m) …こ別城岬の駅前… しばらく林道を歩いて分水箱 の尾根に取り付く。踏跡もない尾根は密生し たスズタケが踏査班の前進を阻む。 お給さ んの深情け」と誰かがジョークをとばしたが 予定を遥かにこえて黒峰(1285**・山頂で日没 となる。これが九州脊梁踏査の序曲で、以後 10回にわたり延べ87名が、この九州最難 コースに挑んだ。一般に九州脊栗と呼ばれる 範囲は、黒峰から市房由までとされているが 態本・宮崎県境の五家荘、養養、米良荘など 九州の秘境に囲まれた夏季い山麓である。 黒峰から明治10年、紫本域東西で敗れた西

郷さんが山智管に乗って絶えたと伝えられる

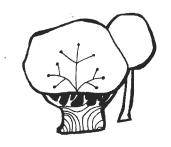
一の瀬越し(1150m)を経て、トンギリ山(1253m)小川岳(1542m)黒岩山(1582m)と五ヶ瀬スキー場までのコースは、南から北へ逆路を歩いた。かっては踏跡すらなかった県境稜線に、永谷誠一会員らのグループが丈なすスズタケを伐って、黒峰から向坂山(1684m)三方山(1580m)椎矢峠(1442m)を経て、脊梁の盟主、国見岳(1739m)まで縦走路を開いた。

さらに五勇山(1663m) 烏帽子岳(1697m) 椎葉 越(1494m) を経て白鳥山(1643m) まで尾根が 切り分けられた。可なり風通しがよくなった が、2年続きの台風被害で林道が各所で崩壊 し、分水嶺への接近が困難になった。九州脊 梁山地は全て「九州中央山地国定公園」内に あり、森林の大半は国有林となっているが、 銚子笠(1489m) 以南は、日本製紙、十條製紙 の社有林、九州大学の演習林(武仙)神宮司庁 用林(視論)などになっていた。余談だが、脊 梁の盟主・国見岳については、1906年に刊行 された高頭 式の『日本山嶽志』では「国見 嶽肥後国上益城・八代/二郡日向国西臼杵郡 ニ 跨 씨 上益城郡白糸村大字菅 ヨ リ 六里 ニ シ テ 其山 頂:達ス | と極めて素っ気ない記述で、標高 すら書いてない。当時、九州では最も避遠の 奥山だったことが伺える。

深田久弥が「念頭にあった」としながら、登らなかったため『日本百名山』の選に洩れた市房山(1721m)は、九州脊梁山地の南端に秀麗な山容を見せている。国道(R-388)が通る湯山峠(944m)から二つ岩(1670m)まで登路もない急峻な尾根を直上する。これには60代の精鋭、加藤、石井、安場の3人が挑戦した二つ岩から、鋸尾根と呼ばれる峨々たる岩稜が続く。予定を大幅に超えて17時、残照の市房山頂に立った踏査班は、折からの月明の光も透さない、深い森林の急坂(比藍940m)を飛ぶように降りて来た。

(白髪岳山系の分水嶺) 市房山南西尾根から西米良越、牧良山を経て横谷峠に至る分水 嶺も藪化した難コースだった。熊本・宮崎県

境の横谷峠は、日向灘に注ぐ大淀川水系と八 代海に注ぐ球磨川水系の分水嶺である。往時 は10数軒が庇を並べ、峠を越す旅人の往来で 賑わったそうだが、峠下に国道 219号のトン ネルが開通して以来、住民は次々と峠を離れ 今は熊本県側の1軒だけになってしまった。 ここは湯ノ原山(1056m) 花立山(1106m) を経 て槻木峠(755m)まで分水嶺に沿う飯盛林道の 起点にもなっている。市房山南西尾根から西 に転じた分水嶺は、横谷峠から飯盛林道沿い に槻木峠に至り、小市房の異名を持つ黒原山 (1019m)を経て、白髪岳山系東端の小白髪岳 (1184m) に繋がる。平成17年5月4日、あさ ぎり町のビハ公園キャンプ場を出発して猪子 伏登山口から白髪岳(1417m) へ向かう。白髪 岳は、国見岳と共に1等三角点(棹)の山であ る。参加者最年長80歳の永谷会員の発声で、 12名全員が高らかに雄叫びを挙げる。踏査終 了点の合流点(IMII/I/f
闡)へ廻るサポート班5 名と別れ、踏査班7名が国見山(1228m)…分旅齢 simt 200 m/th ていた… 八ヶ峰(982 m)を経て県境林 道(663m)へ下った。国見山から八ヶ峰に向か う深い森の中で、尾根を間違えて時間を費や した。県界の両国橋で、待ち侘びたサポート 班と握手を交わしたのは17時を過ぎていた。 これでGPS測定点の踏査は終わったが、林 道不通のため残されたラインを3回に分けて 歩いた。11月20日、9名を2班に分けて、湯 山峠から江代山の未踏査区間と、花立山西北 尾根を歩いて中央分水嶺の踏査を完了した。



中央分水嶺踏査のあれこれ

11771 加藤功一

中央分水嶺の踏査は2004年3月23日から2005年11月20日まで28回、26名が参加し延べ188名となりました。 途中、全国支部懇談会やネパールトレッキングで中断しましたが、1年8ケ月を要し踏査を達成することができました。

私はB班の班長として、全回参加することができました。

分水嶺踏査の全体のまとめは、本田隊長が「中央分水嶺を歩く」で 報告されていますので、私は踏査の中で特に印象に残ったことを述べ たいと思います。

分水嶺踏査スタート(2004年3月23日)

いよいよ今日から分水嶺の踏査開始、北から南に向かって進める予定まず熊本・大分県境の瀬の本、赤川有料道路分岐点K86からスタートちょうどヤマナミハイウエイが分水嶺となっており、ハイウエイ沿いに車を使用しての踏査となる。

*キスミレ満開(2004年4月12日)

早春の野焼きで真っ黒なところに、キスミレの花が一面に咲いていた。

これまで阿蘇の山で、少し咲いていたのは見たことがあるが、こんなに沢山咲いたのを見るのは初めてだ。

波野の平原にキスミレの花が波打っている。 分水嶺踏査でないとこんな所に来ない。 このキスミレの穴場を知ってかカメラマンが 一人来ていた。

その他、ハルリンドウ、フクジュソウ、ツクシフキノトウが咲いていた。



キスミレ

・箱石峠の茶屋(2004年4月12日)

箱石峠に美味しいソバ屋がある。と本田さんの案内で全員手打ちソバを 注文、さて本当に美味いか?誰も何とも言わない。

本田さんが「俺がおごる」と言われたが、「いや皆で払います」と払った。 後で小さな声で「美味くなかったね」誰かが言うと「いや本当の手打ちソ パの味がわからないからだ」と私が言った。

·高森ゴルフ場9番ホール(2004年4月29日)

ヤブの中にロストボールがいっぱい落ちていた、しばらく行くとゴルフ場のグリーンに出た。分水嶺を探したら、9番ホールのグリーンの上となっていた。全員で記念写真を撮る。

踏査記録を本部へ送付したところ、分水嶺がグリーン上にあるのは珍しいので、JACの「山」に記載してくれた。

キャンプによる踏査で

踏査効率を上げるため、春・秋の連休を利用しキャンプにより実施した。

2004.05.2~3(高森公園・テント)

2005. 4. 29~30(飯干峠・テント)

2005. 5. 3~4(あさぎり町 ビハ公園・テント)

2005. 10. 29~30(湯山 大平キャンプ場・ロッジ)

キャンプでは酒を酌み交わし、山の話に花を咲かせた。

・マウンテンバイクでの踏査(2005年3月2日)

椎矢林道が道路決壊しており、復旧を待っていたが、矢部町に聞いたら 復旧は「いつになるかわからない」との返事、椎矢峠〜国見岳がいつま でも終わらないので、私一人でマウンテンバイクで行くことにした。

広河原までは車で行けた。それから先はマウンテンバイクを押して木谷登山口へ、できれば椎矢峠まで行きたかったが、登山口の少し先で土砂崩落で道路が閉ざされており行けない、しかたなく登山道から登る。

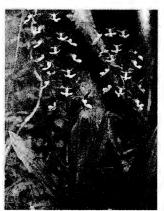
長谷登山口分岐から椎矢峠に向かって下るが積雪で思うように進まない帰りの時間に合わせ引き返す、登山口からはマウンテンバイクで砂利道をドンドン飛ばす、振動で身体の肉がぶれている。

行きに2時間のところを20分で下った。

(マウンテンバイクの、あまりの振動で身体中の筋肉が1週間痛かった)



ヤマシャクヤク



エビネラン

・稲積山~高岳での遺難騒ぎ(2005年4月14日)

三方山方面は台風による**道路決壊で、権矢林道**から入れないため山都 町湯鶴葉からとした。

迂回したため踏査開始が9時30分となった、このルートからまたとは来れないため、無理は承知で本日の目標点まで行くことにした。

出発に先だち本田さんへ「今日は遅くなるかも知れません、もし帰らなくても探さないで下さい」と言っておいた。

帰路暗くなりヘッドランプをつけ赤テープを頼りに下る。21時頃サポート隊の車のヘッドライトが見えた。当然待っていてくれるものと思っていたら登山口に着いたら誰もいない。

(サポート隊は、私達のヘッドランプ灯りを見て待っているものとばかり思っていたのに。)

急いで落合場所(清和文楽館)に行き、いきさつを聞いた。 踏査隊が21時まで待っても帰らないので、事務局長の田上さんへ捜索 隊を要請したとのこと。(踏査隊を見てすぐ取り消した)

*宮崎県側からの踏査(2005年4月29日)

台風で道路がいたる所で決壊し、不土野峠からの踏査は見合せていたが、復旧の見通しが立たないため踏査に踏み切った。 湯山峠を越え椎葉村に下り、宮崎県側からの踏査となった。 工程が長いので飯干峠でテントによるキャンプとした。今日初めて参加した村尾君の、お酒を飲んでの楽しい語らいで賑わった。

•FM中九州での放送(2005年5月24日 17時25から40分まで) 日本山岳会中央分水嶺路査の情報を聞き、FM中九州ラジオから取材 要請があり(田上事務局長から対応依頼)、私と家内が対応した。 その放送を次の踏査時、清和文楽館駐車場で参加者全員で聞いた。



オオヤマレンゲ



ツクシシオガマ



コパイケイソウ

・美味しかったラーメン(2004年12月19日)

今日は湯山峠から市房山へ長い険しい踏査である、登路がはっきりしないのと、傾斜がきついのとではかどらない。二つ岩に着いたのが2時半サポート隊との交信で「まだそんな所にいるのか」と言われた。ここからは踏み跡があるので順調に進み市房山頂に5時に着いた。

暗くなる前にできるだけ稼ごうとすぐ下山開始、途中サポート隊から 「市房神社で待つ」との交信あり、ヘッドランプを頼りに走って下る。 神社の下で真っ暗の中、本田さんの出迎えを受けた。 駐車場では廣田さんや家内がご飯を炊いたり・ラーメンを作って待って いてくれた、熱いラーメンの美味しかったこと。

悩まされたツツガムシ

最近は山に鹿や猪等が多くなったせいもありツツガムシが何処でもいるようになった。(以前は大隅半島の山にしかいないと言われていた) 私は20年程前、大隅半島の高隈山でツツガムシに食われ40度の熱が 出て3日間寝込んだ経験があり、ツツガムシには特に注意していた。

踏査でヤブの中を行くと、ズボンにツツガムシがいっぱい付いているので同行者に「これがツツガムシ」と教えてやった。注意して払い落としていたが、帰ってから調べて見るとやっぱり刺されていた。同行者に聞いたが誰も刺されていない。同じ条件なのに私だけ刺されているのはおかしい。私は「ツツガムシ病」(暖かくなると痒くなる)になっているのだろうか?

その都度病院に行き抗生物質と塗り薬を貰った(2月・5月・7月・11月) (障害保険へ申請し、通院費を貰った)

·踏查達成(2005年11月20日)

K点測定は先に済み、未踏査ルートも一応済んでいたが、踏査達成記念を含めて、江代山方面と花立山方面を踏査することになった。 田上さんが作った「熊本支部分水嶺達成記念」の横断幕をパックに全員で記念撮影、2班に分かれて最後の踏査を行った。

・出合った主な動植物

(動物)

鹿: 至る所にいた、食害がひどい、特に頂上付近のスズタケは食い荒されて枯野原となっていた。

網にからまり骸骨になった鹿がいた(2005年11月20日)

猪:山の人家近くにいた、道路を横断していた猪の子供が私の車に驚き 土手に登ろうとしたが急で登れず、道路に転げ落ちあわてて逃げた のが面白かった。

(植物)

ヤマシャクヤク(2005年4月29日、白鳥山) ツクシシオガマ(2005年5月2日、南外輪山崩土峠) コパイケイソウ(2005年5月4日、小白髪岳) ミツバツツジ(2005年5月4日、白髪岳) エビネラン(2005年5月8日、南外輪山中坂峠) オオヤマレンゲ(2005年6月12日、三方山)

*写真は山渓の「山に咲く花」から

分水績の峠

5421 本田誠也

熊本支部で分担した144駅(水平離)の分水 額には、約40の峠がある。既に廃道になり 荒れた峠や、新道が開通して昔日の面影を留 めない峠もある。だが古い歴史を秘めた情趣 のある峠も少なくない。県南部の球磨郡から 東の宮崎県に入る幹線道路は、北から古屋敷 道、湯山道、米良(め)道の三本があり、いず れも車道で分水嶺(九州脊梁山地)の峠を越 えている。この三つの峠のメモから…

(不上野峠) 水上村の古屋敷から上椎葉の 不上野へ越す峠で、県道 142号が通る。戦前 は細い山道だったが、峠には茶屋もあり、上 椎葉から古屋敷へ行く主要な道路として、古 くから北の県分越と共に利用されていた。戦 後暫くして脊梁縦走の途次、初めて、この峠 を越えた。冷たい雨に行き暮れて、峠西側の 平畑(だいば)の一軒家、永田長利さんのお宅 にご厄介になった。まだ電気のないランプ暮 らし… その夜、囲炉裏を囲んで山の話など を伺ったが、峠は殆ど上椎葉の人たちの通行 に利用されており、時折り商人や山師などが 越えていたと云う。その後、永田さん一家は 山を離れて古屋敷へ移り、今は住居の跡もな い。車道になった標高1084m の不土野峠には 北側に熊本県知事の「県境碑」南側に宮崎県 知事の「県境不土野峠碑」が建つ。明治10年 4月、熊本城攻囲で敗退した西郷軍は、不士 野峠を越えて人吉に入った。翌日、霧立越を 踏破した桐野利秋の別動隊も、峠を越えて江 代に向かった。人吉での1ヶ月余の攻防の後 官軍の1隊は不土野を占領し、薩軍は古屋敷 に放火して江代に退いた。不上野峠は近世、 内戦の歴史の道でもあった。

(湯山峠) 水上村湯山から椎葉村の矢立開 な墓石が建てられているが、時折り私自拓へ、湯山峠(944m)を越して国道388 号が通 管理を兼ねて墓参に訪れると云う。そのる。昔は越野(こえんの)と呼ばれていたそうだが 良家には、大淀川の支流、板谷川の源流県界は北東に約1 報も離れた、境谷が矢立川 冷たい清水が簡易水道で引かれている。

に合流する地点にある。また、本来なら県境線は尾根を通る筈だが、江代山(1613m)から南下した県境線(分離)は、地図上の1464m標高点から南東に折れて境谷に入っている。それで境谷と呼ばれているが、地図上の県境線は市房山・二つ岩(1670m)北尾根の、1154m標高点まで描かれていない。米良も椎棄も、藩政時代は人吉(根)藩の管轄下に置かれていたから線引きも定かではなかったのだろう峠から南側の江代山東面一帯は、九州大学演習林になっている。

米良道とは、国道219 号のうち (横谷峠) 湯前から横谷峠(665m)を越えて宮崎県の米良 地方までの道を云う。かってはヘアビンカー ブの難路に悩まされた横谷峠も、峠下にトン ネルを掘り新道が開通して以来、住民は次々 に峠を離れ、熊本県側の1軒だけになってし まった。藩政時代は、相良藩が管轄していた 米良地方との往来が盛んで、10数軒が軒を 並べ、茶屋もあって賑わっていたと云う。 ここは飯盛林道の起点でもあり、仁原(ほから) に営林署の事業所があった頃は終日、木材搬 出のトラックがエンジン音を轟かせながら行 き交っていた。電気が通じたのは戦後しばら く経ってからで、ランプ暮らしが長かった。 | 砂は黄金] と云う変わった名の民宿がある が、閉まっているのか人影もない。民宿の裏 から分水蘭の急斜面を登ると、深い落葉に埋 もれて大山祇神と源之進大明神の祠が鎮座し ている。5~6年前、県境の山を歩いた時、 以前、店を出していたと云う老婦人が「昔は 毎日登って清掃していた… 榊や花を供えて 神さんと話をしていた」と話してくれた。こ こは県界を挟んで、湯前側と米良側の家が建 てられているが、分水嶺は廃屋の庭先を通り 西へのびてる。米良側には、上米良家の立派 な墓石が建てられているが、時折り私有林の 管理を兼ねて墓参に訪れると云う。その上米 良家には、大淀川の支流、板谷川の源流から

初めての上高地

10185 神谷平吉

昨年晩春から、右下肢を痛めて、せいぜい里山を訪ねる程度の山行に終始する様になってきてみると、50数年来の過去の山行が、如何にも懐しいものに思われて来ました。その中でも忘れ難い珠玉の山行の思い出を辿ってみることにしました。

上京して大学に学び始め最初の夏休み、昭和23年の事であるが、友人のK君の 熱心な誘いにほだされて、常念岳を目指すこととなった。安曇野からも、槍・穂高 山系からも、その見事なピラミッドの山容を誇る常念。既に八十数年も前、ウエス トンは、「松本付近から見えるすべての峰の中で、常念岳の優雅な三角形ほど見る 者に印象を与えるものはない。」と絶賛している。

私達は、松本から北アルプスの東麓により沿う様に山間を縫って北上する大糸線の豊科駅で下車、須砂渡までバスで入った。其処からは烏川の支流、一の沢に沿って長く根気のいる谷沿いの登りが始まる。胸を突くジグザグの山路が延々と6時間以上も続き、やがて眼前が開けると常念乗越であった。日は稍西に傾き、その夜宿泊予定の山小屋の赤屋根が、針葉樹の林に透けて眩しく輝いて望まれた。

東麓の安曇野に雲海が拡がり、やがて昇り始めた太陽に、山々も雲も赤々と燃え 染める頃、私達は海抜2857mの常念岳山頂に立つことが出来た。山頂に向かって吹き上げる風の鋭い音は耳を顫わせ、今しがた後にした山小屋が、眼下の馬の背を想 わせる岩肌に小さくしがみつき、其処から北へせり上がる尾根は、横通岳の山稜へ と続いている。又、西側には、槍ケ岳、大喰岳、中岳、南岳、北穂、涸沢岳・・・ ・と続く北アルプスの主峰たちが、その山肌も露に眼前に屏風その儘にそそり立っ て息を呑む想いであった。

常念から蝶ケ岳へ向かうなだらかな起伏の尾根を南下しながら、私達は少しずつ 視野の変わってゆく槍・穂高連峰の偉容を満喫し続ける事が出来た。蝶ケ岳 (2664m その名を想わせる様に、広いお花畠に真黄色なシナノキンバイが咲き競い、ふくら みのあるその山の所々には、天然の水たまりの様々な池が散らばっていておよそ他 の山々と趣を異にして豊饒で女性的な山である。私達はそのピーク過ぎたところか ら、道を西に折れて、黒沢沿いに横尾へと向かった。下るにつれて落葉松やコメツ ガの林が近まり、梓川の渓流の響きが近くの山々にこだまし始めた。

此処からの、もう平原とも言っていい位のなだらかな梓川沿いの大正池へ向かう **道程は、私の胸に染み渡る様な幸福感を**もたらしてくれた。

川は、或は急峻な瀬となり、或はエメラルド・グリーンの淵を作りつつ、川原に はケショウヤナギや熊笹を配し、至る所に未だ初々しく明るい落葉松林を鏤め、下 るにつれて瀟洒なシラカバの木々を交えつつ、水晶の様な水しぶきをあげて流れ続 けている。

長い山歩きに快い疲れを覚えた私達は、白く明るい川原に下り立ち、澄明な空を

仰いで横たわった。せせらぎの爽やかな音が耳を掠め、山深い樹林の薫りがかすか に漂っている。幾許かの間、私達はその空気に酔い痴れて時を過ごした。

私達にとって、梓川も上高地も、この時が始めての出合いでった。その静けさを 秘めた最も秘めた最も奥まった地点で、しかも山を愛する一握りの人々しか入山し ていなかった60年近くも以前に、此の地を訪ねることの出来た私は、当時の新鮮 な印象を心の奥深く刻み込むことが出来た。常念岳は、私の登った最初の北アルプ スではなかっが、それなりに実にいい山に違いなかった。

にも拘らず、初めて横尾に下り立ち梓川沿いにこの聖なる『神河内』に足を踏み入れた私は、何時しかその虜になってしまった。常念山系と穂高山系の間を分かち深く抉られた壮大な渓谷という条件の中で、その渓谷に沿って南北十数キロに亘る間だけ、帯状に夢のような草原と湿地帯、広々とした河原とを伴ったこんなにも恵まれた豊かな地形を創り上げた大自然の偉大な想像力に、目を瞠るばかりである。この地こそは悠久の大自然の限りない力をもってしても、稀にしか創作しえない傑作の一つと想わざるをえない。

岩魚釣りの土地の人の足音が、私達をひとときの瞑想から醒めさせてくれたのを契機に、私達は重い腰をあげた。小梨平に着く頃には、あたりは夕闇に包まれ、山の霊気が一面に拡がり始めていた。

その後、私は何度となく妻を伴って上高地を訪ねた。又、妻が次女を産んだ年には、上の3人の幼い子供達をつれて此の地を訪ね、中の湯に泊まり、安房峠より乗 鞍岳へと向かい、畳平より剣ケ峰へ登らせたこともあった。

しかし、悠久の大自然に変わりはないとしても、此処には最早、初めて私が出合うことの出来た「上高地」の雰囲気を求めることは出来なくなっていた。時代の波と共に、この地が次第に観光地して来ている現実に、一抹の淋しさを禁じ得ない最近である。

傘寿を迎えての山登り

12909 永谷誠一

日本山岳会創立100周年誠に御同慶に堪えません。諸先達の山に対する情熱と 開拓精神に改めて畏敬の念を表する次第です。

さて、昨年傘寿の歳を迎え、昭和21年の久住登山より始まり、今日まで60年おかげで全国各地の山々を訪ね、多くの体験と人との出会いを得たことに深く感謝をしております。四季を通じ、又花を求めて各地の山に接し、4月には熊野古道の一部を歩き、7月には世界自然遺産に登録なった知床半島羅臼岳に親しみ、更に斜里岳、雄阿寒岳と道東の名山を堪能し、8月には久し振りに裏銀座コースを縦走し雨の槍ケ岳に登頂した。又、10月には、6月に開通したばかりの信越トレイル(約60キロ)の一部を辿り、近くの妙高山に打山を連続して登り、何れも初登頂

の喜びにひたりました。

今年は、4月にカタクリで有名な山口県の寂地山を訪ね、5月には屋久島の愛子岳、モッチョム岳を目指しました。6月には大台ケ原と熊野奥駈道の八経ケ岳にオオヤマレンゲとの出会いを求め、、8月には、南八ケ岳のアルペンに遊びました。

10月には紅葉真っ盛りの尾瀬を探勝する予定です。そして、3月18、19日の両日にかけて催される「日向往遺歴史ウオーク」には案内役として、御船目鑑橋より矢部、馬見原と40キロの古道を往時を偲びながら歩くことにしております。

日頃の健康に感謝しつつ、今年も幸多き山旅を楽しむ所存です。

分水嶺路査に参加して

会友 加藤百合子

日本列島に降る雨は、ある場所では太平洋へ、又、ある場所では日本海へと、全く違う流れを辿る。その境目が分水嶺。その調査に16回も参加させてもらい、貴重な体験をさせていただきました。

分水嶺といえば、高い山をイメージしていましたが、実際に歩いてみると、標高 の低いところもありました。森の中からいきなりゴルフ場に出たりして、分水嶺が 9番ホールというめずらしいところもあったりしました。

調査に参加して一番印象に残っているのが阿蘇の朝の牧野に咲いていたキスミレを見た時は本当に感激しました。たくさんの季節の花や、山野草を見ましたが、野焼きの跡の黒い地面とは対照的に一面に咲き競うあのキスミレだけは忘れられません。何時までも何時までも残っていてほしいと思います。又、驚いたのは波野高原でした。その名のとおりどこまでも波のようにうねりが続き、同じ高原でもそこに降った雨が太平洋と日本海へと分かれる。その不思議さを感じました。

やぶこぎでは手から顔から引っ掻き傷だらけになったり、ルートがわからず行ったり来たりして遅くなり、家に着いたのが夜11時半過ぎていたりしたこともありました。それでも分水嶺をまたいで、「右足は日本海側、左足は太平洋側にあるのよ」といって両足を広げて楽しんだこともありました。普段の山登りでは行かない、いや行けない所にも行けたし、いろいろなめずらしい体験をさせてもらいました。

足掛け2年間の変化に富んだ熊本の分水嶺を懐かしく思い返しています。

私達の山登り・2005

会友 松岡榮治・啓子

◎ 2005年4月29日

RKKグリーンウォーク立田山ハイキング (8km)に 参加。 昼食後、石原良純トークショウやアゲインの歌を聞く。 楽しい一日でした。

◎ 10月3日~8日

里帰り出産した次女や孫たちの世話(4カ月)の苦労をねぎらって、ハワイ 三島めぐりの旅をする。 フリータイムにダイヤモンドヘッドに登ったり、 ワイキキビーチを散策する。

◎ 11月3日~7日

日本山岳会創立100周年・関西支部設立70周年記念行事に参加。 4日午後、高野山遍照光院集合。藤本慶光氏の案内で高野山奥の院へ行く。 夕食後、住職のお話。

5日朝、6時半より本堂で朝のおつとめに参加。午前中 藤本氏の案内で、 見事な紅葉を見ながら、伽藍、金剛峰寺の拝観。解散後、霊宝館を見学。 午後、記念講演。「日本の登山文化の原点を探る」

河口慧海の道を追う一日本人初のヒマラヤ越えー高野山大学教授奥山直司氏 役行者と修験道 吉野山金峯山寺宗務総長 田中利典氏 記念式典。 懇親会。

6日、記念山行

Aコース 町石道 檀上伽藍~九度山駅 (23.5km) に参加。小雨。

◎ 12月20日

加藤功一夫妻より忘年登山に誘われる。 雪の杵島岳、往生岳へ。 スキー場入口より、加藤明を先頭に登り始める。石段が雪で見えない。私達 夫婦は初めての山である。頂上は風が強い。往生岳の方へ降りる。加藤明の 足跡を頼りに一歩一歩前進。雪が膝まである。滑ったり、ちょっと脇へそれ ると腰まで雪の中へ入ってしまう。ふわふわして支点がなくなかなか起き上 がれない。麓の風のない日だまりで昼食。往生岳へ登り、記念撮影後、すぐ 下山開始。ワー、キャーの連続である。杵島岳の元来た道を登り始める。中 腹まで来て、雪の少なそうなお鉢廻りをして降り始める。雪の深さは変わら ず、薮こぎが加わった。黙って前進。やっとの思いで車道に出る。天気が良 く、まだ日差しがある。観光バスが一台通りかかり、乗客が何か不思議なも のを見た様子で手を振った。

[榮治]

◎ 9月28日

以前に、玉山登山の計画を話していたら、加藤夫妻より訓練にと、鞍岳に誘われる。四季の里で、加藤明と合流。登山口より、約2時間、1119mの頂上へ。ツームシ山へ足を伸ばす。意外と遠い。パノマラコースを降りる。 [榮治]

◎ 10月16日~19日 玉山(台湾) 登山 嘉義の兄弟飯店ホテルで、大阪、奈良、熊本の6人が雪山登山の6人と合 流。 広東料理で会食。

17日 6時起床、朝食バイキング。6時40分ホテル出発。台湾最高峰玉山を目指す。登山口までバスで約3時間。標高2500mの登山口まで一気に登る。バスはタタカ登山口の手前の駐車場に止まり、ミニバンに分かれて登山口まで行く。山のガイド2名と合流。体操をして10時から登山開始。いきなり崖が切れているところがあり危険な山道、油断して転ぶと落ちかねない。直射日光が当たり結構暑い。12時半ごろ着いた展望台で昼食。ここから玉山がよく見えた。15時30分排雲山荘に到着。山荘は新しくトイレもきれいだった。水が豊富であふれていた。17時夕食。眼下に雲海が広がり、夕日が真っ赤できれい。

18日 朝1時30分起床。2時朝食。3時、ヘッドライトをつけ出発。山頂までの距離は2kmだが、標高差が500m近くあるので急な登りが多い。特に最後の500mは岩場で、手をついて登るところもあり、風が強く少し危険を感じた。気温が低く、風が体感温度をさらに下げた。ゆっくりゆっくり山頂を目指す。5時半無事全員登頂。 アミューズガイドの安藤君と喜びの握手。寒い中、暖かいコーヒーを飲みながらご来光を待つ。雲海が広がり、少しずつ明るくなる。 6時過ぎ下山開始。7時40分排雲山荘到着。山ガイドが作ってくれていたぜんざいをいただく。荷物をまとめて8時10分、来た道を戻る。12時15分タタカ登山口に到着。スルーガイドの呉さんと合流。チャーハン弁当の昼食。13時にタタカを出発。台北まで約7時間。19時30分に到着。台北市内のレストランで夕食。

わが心の古里「ネパール」

10390 阿南誠志

私が登山を始めたのは15歳のとき、伯父に連れられて久住山に登ったのがきっかけである。かっこいい登山スタイルのニッカズボンに登山靴、キスリングザックベストとチロリアン帽子、憧れのスタイルであった。ポリタンクにコッフェルとホーエブス、綿布に近いビニロン屋根型テント、道具が一つ一つ自分の物になっていくことが楽しかった。

休みが取れない私には、九重山や阿蘇山に汽車、バスを乗り継ぎ登山することが 青春そのものであった。

いつしか日本アルプスや世界の山々に気が動くようになったが、勤めていてはままならぬ現実に時は過ぎていく。転機は23歳の時、インドやバングラデッシュ、ビルマなどに研修に出た時であった。喰えなくても餓死していく人々や、学校もない子供の生活を見た時、日本の恵まれた状況と贅沢なまでの生活に大きな反省と、自分に何ができるか、自分は何のために生きているのか?を問うた。

動めていては何一つ実践出来ないことのジレンマの日々が続いた。しかし、25歳で結婚するとき思い切って会社も辞め、同時に『山の店シェルパ』を家内と2人で始めた。動機は不純であるが、「自分が生きている証」としたかったからである。

他にこれといった能力もなく技術もない私が選択したのは、「自然大好きな登山の店」であった。今のように登山者がいるわけでもなく、細々と生活することがいっぱいで、時には実家から米などいただき食いつないだ。しかし、登山仲間が一人又一人と助けてくれるようになり、九州の山から北アルプス、日本の山また山と出かけるようになり、憧れのネパールに初めて行ったのは、山の店シェルパを開いて12年も経っていた。

初めてみる8,000メートル峰と、天を突くような白い頂、どれもが感動であった。 しかし、それ以上に心を留めたのはシェルパ族の生活と、子供達の輝く瞳であっ た。電気も無い、自転車も無い、食べる物だって満足な物ではないのに生活してい る人達、でも従順で明るい。私はネパールに行くと我が家にでも帰ったような安堵 感を覚える。大好きな「心のふるさとネパール」である。

一昨年は、自然を愛する会の有志会員の募金で学校を贈った。

昨年は、熊本の子供達もネパールの学校訪問をして交流が始まった。いつかネパールの子供達が熊本へ来て、交流が出来るようにしたい。

32年前、私は「シェルパ」という言葉さえ深く知らなかった。山の友人が、「ネパールでガイドしているのがシェルパだから、阿南も「シェルパ」がよかろう。」と付けていただいた『山の店シェルパ』である。毎年のように登山させていただき、シェルパ族との交流がある。

これほどまでに「シェルパ」が大好きな「店名」になろうとは思いもしなかった。これも私に与えられた「天命」かもしれない。

里山の生活

9328 川端浩文

思えば今から10年位前のことであるが、定年を真近に控えて、余生をどう過ごすか考えていた。来日中の留学生に「君の国(オーストラリア)で日本語指導のボランティアをして暮らすことになれば、僕を手伝ってくれるか」と訪ねたことがある。彼女の郷里を縁あって訪問し、すっかり気に入ったので本気で考えていた。

「来てよいが、その他に何をするのか」と反問され、また色々と起こるであろう 苦労を考え、それを断念した。

「そうだ。熊本には世界に誇る阿蘇がある」と思い、早速適地を阿蘇周辺に探すことにした。運よく自分に最適の場所が見つかり、早速業務用軽トラックも同時に購入。山中で立ち往生することしばしば。これがそれから次々に起こる難題の始まりであった。

さて、入手した山は杉林を切り払ったばかりの原野で、灌木や杉の枝が足の踏み場に困るほど山積みになっていた。

田舎暮らしの経験は皆無の小生には途方に暮れる日々となったが、地元の方々のおかげで何とか片付いた。次は電気と水をどうするかであった。町に住んでいるとこれらで苦労することはほとんどないが、山中で確保するにはかなりの苦労を強いられることになった。小川の近くに井戸を掘り、それを汲み上げて使うことにしたが、念のため水質検査を依頼したところ、「飲料不適」との連絡。そこでポンプと除菌装置を自力で取り付け、やっと合格通知をもらった。

厳冬期の確保は?炊事と風呂の廃水とトイレの汚水処理は?菜園の手入れは?蜂や蟻や害虫の駆除は?。次々に難題に遭遇することになったが、一つ一つその対処の仕方を学んだ。

わざわざ苦労して山里に暮らすこともなかろうに、と思われる人もおられるかも しれないが、生来山好きの小生にはそれらは余り苦労と思えず、益々、好奇心をそ そられ、試行錯誤を繰り返しながら充実感を味わっている。

四季折々の自然の変化の中で、植樹、菜園の世話、物置・浴室・テーブル。椅子等のDIY、周辺の山へのハイキング、地元の方との交流等、かっては思いもしなかった体験を満喫中。

更に、今年こそは・・・

13845 加藤 明

昨年は、年を通して分水嶺調査で、キャンプ等も数回行い、楽しい充実した一年でした。また、アルコウ会で木曽駒、甲斐駒、仙丈ケ岳等を登ることが出来ました。10月には、娘の結婚も重なり、アッという間に一年がが過ぎた思いです。

最近は一人になったせいか、身体が訛ったせいか、行動に計画性がなく、行き当たりばったりの生活で充実感が湧きません。

今冬は、特に雪が多かったので元気付けに12月30日中岳に雪の調査に行きました。近年にない積雪量でビックリしました。

1月には竜ケ岳、古閑の滝、参勤交代の道等散策し、少しずつ体を鍛えております。「今年こそは頑張るぞ」と地図とにらめっこの毎日です。

中央分水嶺路査に参加して

2006 2 24 No 13852

石井文雄

阿蘇から白髪岳まで、台風と長雨の後を長期間かけて峰峯を歩き、自然に接する 事で英気と沢山の事を学べました。

鹿の角は、春先自然に落ちると聞いていましたが、山の斜面に、角の先だけが刺 さり、取れていたし、鹿除けの防護網には、角が絡み、後ろに引けば外れるのに前 へ前へと突き進み、ぐるぐる巻きに絡まり、苦しみ抜いたと思える白骨化した一体 も有りました。又鹿除け網で、猪に食べられずに生き残つたと思える、ガマガエル にも会えました。

春先には、桜草が歩道脇に一株咲いていましたし、黄色のマムシ草、エビネ草の花、翁草、ウド、ダラノメ、ワラビ、キノコ等々にも、又鹿児島との県境、仁原小分校跡地近くの、民家跡では、屋敷跡一杯のミツマタ群落の花が咲き乱れていました。

九州山地の、鹿の食害跡を歩くと、鹿の臭いがプンプンして、もみじや熊笹も枯れて一面糞だらけの所もあり、鹿を何十回も見ましたし、こんなところを歩くと、ツツガムシがびっしりズボン等にへばりついていて、何度もつん振い、つん振い、帰宅して見るとやられてもいました。病院かよいで、大変な人もいたようです。この事から、ツツガムシ対策として、長めのスパツと、虫除けスプレー、虫刺され処理の薬が携行品に加わりました。

大変だったのは、枝打ちされていない五メトル程の杉林の中や、二メトル程の笹 藪の中に、サルトリイバラ、木苺の刺ある中を、首筋にジカジカを感じながら汗び っしょりで延々と登る時は、泣き面に蜂の感じであつた。いずれにしても、長期間 の思い出が一杯詰また踏査であつたと思います。

最後に、計画やら山道を延々と、サポート、出前のラーメン等々皆様には、大変 お世話になりました。

今年の初登山

14213 原田榮作

平成17年度に入会しました原田です。工藤会長さん、田上事務局長さんに推薦 人になって戴きました。よろしくお願いします。

それまでは、近くの山に家族で登ったり、教員仲間と一緒にハイキングに行く程度の山登りでした。私よりも家内の方が山好きで親戚の者と一緒に登っていました。 平成15年3月、私が県立高校教員を退職した後、「日本百名山」を目標に本格的に登山を始めました。退職して最初に登ったのが屋久島でした。シェルパの方の引率で、何とか頂上にたどり着くことが出来ました。3日間とも雨に降られましたが、縄文杉の風格に感動させられました。現在日本百名山の29座を征しています。年々の体力の衰えで、いつまで登れるか分かりませんが、マイペースで頑張って行こうと思っていますので、どうかよろしくお願いします。

2006年の初登山として開聞岳に登りました。昨年の1月に家内の兄が他界しましたので、今年は喪中の正月でした。例年のように、「おめでとうございます」と言って親戚周りをするのを差し控え、開聞岳登山を思い立ったのです。小学2年と幼稚園の年長組の2人の孫の教育的鍛錬も兼ねての山登りでした。家内と2人の娘に2人の孫、計6人で登りました。

今年の元旦は、「何となく今年はいいことあるごとし。元日の朝、晴れて風なし」という啄木の歌を思い出させるような好天でした。せっかくの機会でしたので、途中の高千穂神宮にもお参りしようと、九州自動車道を小林インターで下車し、えびの高原を通りました。えびの高原一帯は年末に降った残雪があり、素晴らしい雪景色に巡り会い、孫達はとてもはしゃいでいました。大浪の池には氷が張りつめていました。高千穂神宮は、元旦のこととて、駐車場も満杯、参道にも往来するお参り客が溢れていました。「今年の登山の安全」を祈願しました。その夜は、指宿グランドホテルに泊まりました。

開聞岳登山は、私は2回目、家内は3度目でした。家内が1度多いのは、親戚の 者たちと登っているからです。9時50分、登山靴に履き替えて駐車場を出発しま した。開聞山麓ふれあい公園の横のコンクリート道を5分程歩くと、2合目の標識 があり、上の孫が「もう2合目ね」と山登りを簡単に思ったようでした。2人の孫 にとって初めての登山でした。そこからの樹林に覆われた登山道は、やや急ではあ りましたが、落ち葉を敷いた木下道で歩き易く、孫達はスキップ状態で、先になっ たり後になったりしながら登っていました。孫達には、「人生と同じだ。先が大変 だゾ。ゆっくり登れ」と、わざと何度も繰り返し言いました。3合目、4合目では 標識を挟んで孫達の記念撮影をしました。開聞岳は、合目と山頂までの距離が書か れた標識が立てられていたので、「あと残りは何合かい」とか、「頂上まであと何 メートルかい」とか、孫達を励ましながら登るのに好都合でした。五合目の手前で やっと視界が開け、眼前に長崎鼻を眺めることができました。それ以後は、大きな 岩がごろごろしており、足だけではなく手も使わなければなりませんでした。途中、 数人の下山者とすれ違いました。一人の女性は、「7時から登った」と言われまし た。もう一人の山口県から来たという男性は、「ご来光を拝むために5時に出発し たが生憎雲がかかっていて見えませんでした。10月に登った時も霧で視界が利か ず、2度とも振られました」と述懐しておられました。頂上に向かって、真っ直ぐ 登る登山道になってないことに気づいた小2の孫に、「ジクザクに登っていくのも 人生と同じだ」と、人生論で励ましました。「人生」が何か分からない孫達も言わ れるままにジグザグ道を黙々と登りました。途中、登山道の上に差し掛かっている 木の枝にぶら下がって、「ターザンだよ」と言ってはしゃいだりしていました。

7合目を過ぎたところに仙人洞の標識が建っていました。「仙人同とは何ね」と聞くので、「昔のお坊さんが南無阿弥陀仏を唱えて修行した所だよ」「水だけで1週間くらい過ごしたのだよ」と、思いつくまま答えました。高くなるに連れて風が強くなりました。太平洋から吹き上げる冬の風は冷たく、鼻水が止まりませんでし

た。幸い空は晴れてきて真っ青な海が見下ろせました。8合目付近では、木の梯子が掛けられていたり、大きな岩をよじ登るところがあり、孫達が転倒しないように気を使いました。それまで、先頭を歩いていた小2の孫に、「ここからの岩場は危ない。おじいちゃんが先に行くから後に着いて来い」と先頭を交代しました。9合目からは、孫たちも疲れたらしく、スピードが鈍りましたが、12時30分に頂上に到着しました。2時間40分を要したことになりますが、保育園の孫も何とか頂上にたどり着くことが出来ました。母親の方があえぎあえぎだったようでした。

頂上は海から吹き上げてくる風が強く、木枯らしの音がビュービューと聞こえました。お陰様で天候には恵まれました。山口県から来たと言われた男性には気の毒なくらいでした。眼下の池田湖や錦江湾はもちろん、太平洋の彼方まで眺めやることが出来ました。孫達に、「あちらが大隅半島で、そのはるか向こうがアメリカだよ」と説明すると、分かったような顔つきでした。深田久弥が書いているように開ばよりのメートルに満たない山であるが、2合目が140メートルで、924メートルの頂上までの標高差が約800メートルあり、登山の難度としては他の初級の百名山以上にエネルギーを要しました。記念撮影をした後、西側の岩陰の日だまりでおにぎりを頬張りました。

下りは、小2の孫と私、幼稚園の孫と家内と娘2人の、2グループに分かれました。私たちは速いペースでどんどん下りました。小2の孫はサッカーで鍛えた脚力があり、何人も追い越しました。私の方が着いて下るのに膝の痛さを感じるほどでした。登りの時にすれ違う下山者に、「こんにちは」とあいさつしていたのが身に着いたらしく、登って来る人ごとに、「こんにちは」「こんにちは」と大きな声で挨拶をしていたのは今回の教育効果だったようです。中には「元気がいいね」とか、「強いね」と励ましの声を掛けてくれる登山者もおられ、本人も気をよくしていたようです。私が、「待って」「待って」と言わなければならない程に駆け下りました。携帯電話で家内達と連絡を取りながら下りましたが、1合以上は差がついていたようでした。案内書に書かれている時間より速く1時間45分位で下りました。私たちが車に到着して20分位後に家内達が降りて来ました。

実は、この日のリハーサルを兼ねて、暮れの28日に孫二人も連れて釈迦院の日本一の石段に登っていましたので、「日本一の石段の3333段を上ったのだから、これくらいは大したことはない」と、8合目9合目では何度も檄を飛ばしました。「子ども達の力は侮れない」と還暦を過ぎた家内は感心していました。孫の母親である娘も、「頂上まで登れるとは思っていなかった」と子どもの力強さに感心していました。孫たちは、私と家内の趣味を理解してくれたのではないかと思います。家族が同じ目標に向かって汗を流すことが家庭教育の基本であることを実践できたことが何よりだったようです。思い出に残る今年の初登山でした。



2006年 原田一家の初登山(開聞岳)

近況・雑感

8605 門脇愛子

今、NHKが日本の名峰100選を募集しています。先日、名峰と呼ばれる山は どういう山かということで、各界の方が色々話し合われました。女流登山家、田部 井淳子さんは「眺めて良し、登って良し、想って良しの三拍子揃った山だ」とおっ しゃっています。

私はどの山に投票しようかと考えていますが、それぞれの山にまつわるエピソー **下を想**い出しています。姿、形から云えばやはり富士山に優るものはなく、名峰と しては別格でしょう。私も富士山から登山を始め、いつ見ても美しい山、車中から **電上か**ら眺めながら、当時を想い出します。

その後、色々な山に登りましたが、振り返ると、計画を立て、仲間達と手づくり で、困難もあったけど、楽しく登った山がよい山でした。頂上に立った喜びは勿論 ですが、高い山が一番と云われる事には抵抗があります。山登りの良さは、その過 **程にあ**ると思います。

先日、たまたま高速道のバスの中、都城から眺めた霧島連山、特に高千穂峰が実 **に秀峰で**、天気も良かったのですが、目を見張るものがありました。思い出の山で **もある**し、田部井さんの三要件にも合致します。ふるさとの山の一つとして、名峰 **に養**直できると思いました。 山の思い出は、以前会報に書いたこともありますので、今回は書きませんが、殆どの山が、今はもう想い出の山になってしまいました。でも、所謂山登りは出来なくても、里山や自然の中の歩きを続けているこの頃です。

昨年は、待望の熊野古道や、若狭鯖街道、風情のある熊川宿や、国宝級の寺を訪れたり、股のぞきでしか見ていなかった天の橋立を歩いたりしました。寺巡りというのは、本堂は山の奥にあったりして、結構石段登りがあったり、一寸した山登り(?)でした。

又、中国吉林省の長白山にも行きました。北朝鮮側から白頭山といわれる国境の山を眺めることも出来ました。丁度、阿蘇山のようですが、火口湖は"天池"と云われる絶景です。専用のランドクルーザーで頂上直下の広場まで行き、歩いて15分程で頂きに立ち、滅多にないという快晴にも恵まれ、眺望を堪能しました。それから、南アフリカにも旅行し、ビクトリヤ滝、サファリ、喜望峰、ケープタヴン等自然の風光明媚な各地を満喫した2005年でした。

里山とのかかわり

9328 川端浩文

かって、土日休日は欠かさず山登りに出かけていたが近頃はそれが嘘のような 日々を送っている。せめてJACの会員として恥ずかしくない山登りをしたい気 持はやまやまだが実行していない。近年はせいぜい数山の登山以外近郊の山への ハイキングに終始している。

数年前から関心を持ち始めた里山は今や里山の回復へと興味が移った。里山とは奥山の対比語であるが、戦後里山は急速に人工林へと変わった。今ではその多くが手入れの出来ていない荒れた杉や檜の林となっている。それと同時に動植物は激減し、山の持つ保水力は落ち、洪水・海水の汚濁等の原因になっている。熊本県はそれを見かねて四月から森林環境税(仮称)を県民から徴収して放棄林の間伐・広葉樹の植栽等へ動き始めた。

若い頃は山頂目指してがむしゃらに山行を繰り返し、回数だけが自己満足につながっていたように思う。最近は体力の衰えもあり、スローフードならぬスロー登山となり、周囲の動植物や景観がよく目に入るようになり、併せて里山の少なさに驚いている。ちょっと郊外へ足をのばすといたるところに藪山が広がっている。そこは里山でもなく人工林でもなく、いたる所で蔓が伸びて木々に巻きつき頭を押さえられて苦しそうにしている。そこはあまり野鳥や動物も寄り付かない原野となっている。山はただ放置しておけば自然は回復するというのでなく人の手でよく管理しなければ循環型の自然は生まれない。イギリスでは1895年以来100年以上にわたってナショナルトラスト(史跡自然保護財団)が大変活発

に活動し、イギリスの湖水地方をはじめ各地でその管理下のもと自然保護に努めている。今では100万人以上の会員を擁する団体として世界の手本となっている。かってイギリスを訪問した時湖水地方に足を伸ばし改めてその管理の行き届いるのに驚いた。

自分一人では微々たる力にしかならないが、出来る範囲で雑木林の回復の一助になればと知人と暇を見ては山に入り、コツコツと草刈や植林に励んでいる。春夏秋冬の季節の移り変わりと景観、それに伴なう野鳥や小動物の動き等は街では観察できない貴重な体験を里山は提供してくれる。景観維持の目的で草原の保存活動が盛んになったが、むしろ海の保全や災害防止や動植物の保護のために里山の回復にもっと力を注ぐべきではなかろうか。

南九州に生育する野生つつじ

5120 石井久夫

ミヤマキリシマは有名なつつじで、世間によく知られ、霧島がその名の発祥地で 九州の火山(高山帯)に広く分布している。

霧島山麓地方でも、町花とか、市の花としてその町のシンボルとして愛されている。ミヤマキリシマはもともとヤマツツジの火山性高山型で、花や葉が小型化して 標高700m以上の日当たりの良い場所に群落をつくる。ヤマツツジが高山の環境 (特に、火山ガスと高度)に適応して出来た苛酷な環境条件の場所に自生し、霧島 、阿蘇、九重、雲仙の代表的な名花である。

自生地の高度の低いところから辿ると、ヤマツツジの花の朱色から、ミヤマキリシマのピンクに至る微妙な花の色の変化があり、中間はどちらがヤマツツジかミヤマキリシマか見分けのつかない個体を沢山見かける。勿論、上に行くに従い、花の大きさが小形化し、植物の進化の一端を垣間見るようである。

陽樹であるミヤマキリシマの自生地にアカマツやヤシャブシなどの高木性の樹木 が侵入してくると、ミヤマキリシマの高さも間のびし、樹型がくずれ、葉もまばら になり、最後には枯れてしまう。草原から低木林、高木林へと変化するのは自然の 遷移の方向だから、ミヤマキリシマが生き残るためには遷移が進まず、高木樹種が 優入しないことや、土壌が浅く、風が強く火山ガスの影響があることが条件で、火 山活動がミヤマキリシマを支えている。

そのミヤマキリシマの外に、霧島山麓から大隅半島に常緑葉をもち花冠は小さい (径2cm)、朱色のサタツツジ(キリシマツツジとも云う)が野性種として存在する。サタツツジが園芸ブームに乗って本霧島、紅霧島、桜霧島など多数の園芸品種が創出され、園芸樹として重宝されている。関東地方の各地の庭園などでも「べにきりしま」と呼んで栽培され、群馬県館林市には、「べにきりしま」の名園があり その季節には1~2mの大木が、朱色の見事な花をつけ、観光客の人気を集めてい

るが、関東まで来て、「キリシマツツジ」とは驚きで、その深紅の花びらが今でも 脳裏に浮かんでくる。なんでも島津の殿様が参勤交代の折に、九州から持参したと いう話を聞いた。

又、「くるめつつじ」と呼ばれる小花の品種があるが、これはサタツツジやミヤマキリシマなどを親木として、明治初年頃に作出されたもので、今では数百種に及ぶ品種が栽培されている。

南九州一帯はわが国でも有数の野生つつじの宝庫で、自然交雑により大小さまざまの花を咲かせる野生のつつじが出来て、今日に至り、その野生種の中より選抜されて、今の園芸種が出来たのであろう。

更にもう一つ、大隅半島にはウンゼンツツジが自生している。名前から想像するに、ウンゼンツツジは長崎県島原半島の雲仙岳一帯が自生地のように思われるが、実はウンゼンツツジは雲仙にはなくて、霧島から南の大隅半島を中心とする地域の山地に生育するつつじを「ウンゼンツツジ」と決められていた。しかし、長崎県にはウンゼンツツジは存在しないので、表示として「ウンゼンツツジ(ミヤマキリシマ)」とされ、記念切手が発行されている。図案にはミヤマキリシマが描かれ、解説は別名「ウンゼンツツジ」となっている。

たまたま大浪池に登った時、えびの高原と牧園を結ぶ県道一号線沿いの新床付近 でウンゼンツツジがあると確認出来た。その後、高隈山系を歩いた時にあちこちに ウンゼンツツジをみかけ、南九州にはウンゼンツツジが多いことを実感出来た。

同様に、ヒュウガミズキは宮崎県産と思いきや、図鑑で調べると、生育地は石川県、京都、福井、兵庫の岩石地に生育し、名とは異なり、九州には、野生はないと書いてあるが、昔は宮崎に生育してたらしい。勿論庭園樹として広く栽培されている。

植物の名前の付け方には意外とミステリーが多い。名前の掛け違いの代表的な例は、「ワチガイソウ」(ナデシコ科)という野草があるが、牧野植物図鑑によると昔、この植物の名前がまだ未定の時、鉢植したこの野草に無名であることの標識とし輸違の符号(〇〇)を付けていたことから、いつの間にか「ワチガイソウ」になったと書いてある。間違って付けた学名が現在でも訂正されずに、間違ったまま使用されたり、生物の名前はミステリーである。

つつじの語源は、物の本によると次々と連なって咲く「つつじ咲き」、花が筒状 になって咲く「筒咲き」からきたと書いてある。

北半球に広く分布し、日本は野生のつつじの宝庫で、北海道から九州まで約50種が生育している。朱紅色、白淡紅色、紅紫と花の色は豊富であるが、香りはほとんどない。

アザレア(英名)という西洋つつじがあるが、乾燥地に生育する特性があり、ア ザレアはギリシャ語の「乾く」からきている。ミヤマキリシマもその「乾く」の最 たるもので、陽性で火山の裸地に群生する所以である。 九州の山岳地帯には、つつじ科の植物が多く、「花は霧島 煙草は国分」と小原節に歌われているように、霧島を含む南九州はつつじの仲間のオンパレードである代表的なものは暖温帯(常緑広葉樹林帯)に、ヤマツツジ、コバノミツバツツジ、冷温帯(落葉広葉樹林域)では、ミヤマキリシマ、サイゴクミツバツツジ、キリシマミツバツツジなどがある。その他、つつじの仲間では、アセビ(馬酔木)、ドウダンツツジ(満点星)、溪岸植物の代表であるサツキ、黄色の花をつける ヒカゲノツツジなどがある。

参考までに、つつじ科の中にはホツツジ属、ヨウラクツツジ属、ツツジ属、ドウダンツツジ属、アセビ属、ネジキ属などがあり、ツクシシャクナゲの仲間は、すべてツツジ属の中に入る。

関西支部設立70周年記念事業に参加して

会友 加藤百合子

初めて高野山を訪れたが、まず、1200年の歴史の重みを感じた。さすが世界 遺産に登録されただけの所らしく、昔からそのままに整備され、自然の儘に残され ている。寺院の多さ(117寺院)だけでなく、それぞれの寺院に特徴があり、庭 などもちょっと前からのぞいただけでも素晴らしく、また、他の寺院にも泊まって みたい、ゆっくり見てみたいと思った。

大勢の参加者の一人として参加でき、有意義な時間を過ごすことが出来た。計画 も素晴らしく、プログラム通り進行もスムーズに進んだ。

記念講演の「河口慧海の道を追う」では、よくあんなところを100年以上も前に、単独で前人未踏の所を訪ねるという精神力に感銘した。また、スライドによる説明では、一昨年私共がトレッキングしたところで、カトマンズに始まり、ポカラカクベンシャルコット、ムクチナートなど出てきて、懐かしく、より親近感を覚えた。

また、もう一つの記念講演の「役行者と修験道」では、実際にそれと体験した人による、迫力ある、力強いお話で引き込まれた。しかし、今では修験者もいなくなり、淋みしいと残念がっておられたが、大自然が相手で、人も、神も、仏も自然の一部だというお話しか。そして、21世紀は、自然との共生共死のない時代だといわれたことが記憶に残った。

4日、5日とも素晴らしい天気のもと、美しい紅葉をながめながらの散策は気持ちよかった。初めて訪れた高野山だったが、また、訪ねたいと思った。弘法大師が 閉山された高野山。そして、女人禁制だった高野山に参詣の人々で今も騒あう町を ながめながら、今回参加できたことに感謝した。

日本山岳会創立100周年。関西支部設立70周年記念事業

関西支部への熊本支部からの参加者・・加藤功一・百合子、松岡榮治・啓子 11月4日~5日午前 藤本さん主催による「高野山を訪ねる旅」

- 4日・・・宿坊遍照光院の説明及び案内
 - ・奥の院 苅萱堂に参詣

高野山に詳しい藤本さんのご案内で、滅多に行けないところや それぞれの謂れなど、ゆっくりと巡り、詳しく教えて頂いた。

・遍照光院住職のお話

翌日、講演をされる高野山大学教授の奥山先生も同席され、弘 法大師や遍照光院のいわれなどお話された。

- 5日・・・朝6時半より本堂にて参詣者全員(33名)供養のおつとめ。
 - ・壇上伽藍、金剛峯寺を藤本さんの案内で、ゆっくり拝観する。

11時解散

私共4名では、4日午前中、高野山の町中を大門から遍照光院まで 約2kmを散策する。5日は式典開会までの時間(11時~1時半)に 霊宝館にて、国宝や重文の数々をじっくりと見学し、その後式典へ。

式與への襲本支部からの参加者

加藤功一・百合子、松岡榮治・啓子、廣永峻一、鶴田佐智子、 安場俊郎 (7名出席)

全国から全員で140名の参加者があり、以下、スケジュールにより行動。 【Aコース】に参加しての感想

- 140名中 21名の参加 熊本支部から加藤功一・百合子 松岡榮治・啓子の4名参加
- ・遍照光院・・(1 km)・・壇上伽藍・・(21,5 km)・・大門 ・・慈尊院(町石道の終わり)・・(2,5 km)・・九度山駅 8時出発し、4時10分に九度山駅着(8時間10分かかる)

810m~200mまでの高低差はあまりないものの、約25km という長い距離と、朝から雨で、雨具、スパッツを付けての行動のため、完歩出来るかどうか心配しての出発だったが・・・、途中、休憩も昼食もあまり時間を取らずに九度山目指してヒタすら歩き続けた。町石道(ちょういしみち・1町が109m)を180町、数えなが

ら、慈尊院へ辿り着いた時にはホッとした。 昔から人々が歩いた参詣道を私も無事歩き終え、4人で完歩を喜び

百かり人々か歩いた参詣退を私も無事歩き終え、4人で完歩を喜び あった。

慈尊院で、完歩出来たお礼と、今後も元気で登山できますようにと しっかりと拝み、足腰健全仏足御守を求めた。

『高野詣りは慈尊院から 母なくして 子なし 子なくして 母なし 大師も御母公あっての大師なり』と書いてあった。

2005年の山

9649 鶴田佐智子

2005年の山行は、アルコー会2月例会、2月13日の天草の竜洞山から始まった。本渡から南下して新和町に入ると竜洞山は近い。登山口からゆったり登り下りを繰り返して歩き、仏舎利塔の近くで昼食。317mの山だが展望よく、中国から漂着したという楊貴妃の伝説があるらしい。

3月は雪が多く、6日に天草の倉岳に行ったが682m,一等三角点のある山頂は雪だった。13日は、アルコー会の例会で福寿草を訪ねて久連子から岩宇土山へ登ったが、出発時から雪が降り始め、登山口は真っ白。雪は降り止まず、10時頃から2時間ほど登ると、雪に隠れるように福寿草。12時15分、広い台地に出て昼食。このあたりは福寿草のお花畑らしく、雪をかき分けると寒そうな福寿草がいっぱいだった。登山口に下った時は、リュックも帽子も雪で真っ白になった。

4月に永谷氏の案内で熊野古道奥馳けの旅に参加した。9日、熊本空港から大阪空港につき、吉野千本桜を見て、洞川温泉に泊まった。10日は7時10分、稲村ケ岳へ出発、登山口から法力峠をすぎ、10時半頃山上ケ辻、途中マンサクの黄色い花の間から稲村ケ岳が見えた。雪が多くなり、アイゼンをつけ登り始めたが、小雨が降り始めたのでリーダーの判断で撤退となり、山上ケ辻の稲村小屋の横で昼食となる。法力峠から1380mの三ツ塚へと登り、眺めよく三等三角点のある1347mの観音峰を通り、17時過ぎ登山口に着いた。よく歩いた姉!。11日は、他の人達は天井ケ岳に登ったが、洞川温泉近くの竜泉寺を散歩した。29日はアルコー会のリーダー会で萌の里から俵山の中腹を歩きまわった。この日は天気よく樹陰はなく非常に暑かった。

5月になりし日、大崩山系に向ったが雨になったので高森峠散歩となった。9日は植物の会で人吉の先、旧加久藤トンネル入口近くの久助谷を歩いた。若葉がきれいで、ヤマフジ、ヒゴスミレ、タラの芽、フタリシズカの群生など、春の楽しい谷歩きだった。28日は、金立植物園を歩き、川上龍登園に泊まった。29日は荒川林道入口から羽金山のシダ類を見て廻った。更に樫原湿原に移動し、ミツガシワの群生、ジュンサイ、トキソウなど見て、花を楽しんだ。

6月は、5日久木野温泉に集合して、本谷越の植物を見て廻った。オオルリシジミの食草のクララが咲き、シライトソウにも出合った。月末には上京し、25日は奥武蔵を散策、7月3日と4日は鳳凰三山に出かけた。青木鉱泉から2400m鳳凰小屋に夕方着き、テントを張ったが翌4日は雨、三山縦走は止めて御座石温泉へと下った鳳凰小屋ではキバナノアツモリソウを見ることが出来たのは幸せだった。

7月は霧島で山岳会100周年の九州ブロック大会があった。16日、えびの高原荘で式典があり、石井久夫氏の『霧島の自然』の講演があり、夜は懇親会。17日はBコースの韓国岳から大浪の池を歩いた。45年振りの大浪の池は登山道がすっかり変わっていた。

8月は6日から平戸に行き、347mの志々伎山に登った。低いけどロープあり 急坂ありと変化に富んだ面白い山で、展望は抜群だった。

9月は、3日から国東半島に行き、梅園の里でキャンプ、4日は721m一等三角点の両子山に登った。頂上近くには山帽子の実が落ちていた。11日はアルコー会例会で俵山峠から俵山、アップダウンを繰り返して、1154m二等三角点の冠岳へ。そして地蔵峠まで歩き、沢山のマツムシソウに出合った。熊本国体に使われた所もあったが、変化に富んで面白く、オオクサボタン、アケボノソウが咲いていた。869mの頂上から下りは車道を歩いた。

10月15日は、新高輪プリンスホテルで山岳会創立100周年の記念式典。式典の前に、山野井泰史氏、山田二郎氏の講演会があり、6時から祝賀晩餐会には皇太子殿下がおいでになり盛り上がった。翌16日は727m三等三角点の景信山に登り、高尾山の方へ移動しながら植林の現状を見て歩き、登山口で豚汁をご馳走になった。

また、9日からは2泊3日でバリ島の山をトレッキングした。バリ島は2回目だったが、今回はテンバザールに夜着き、翌30日は7時半バスで北上、ウブト地区に到着後、クルサ村からセバルリ村へトレッキング。ここは島で最高の3142mのアグン山の南西、ゆったりした棚田、美しいヒンズー教の小さなお寺、谷間の正熱帯は美しく、自然豊かなコースだった。昼食後、バスで1500m付近のバリ植物園で花を楽しみ、西部国立公園のムンジャカンリゾートへ夕方着いた。森の中は宿舎のみ、バスで少し離れた小さなバリタワの一階でバロニダンスを見ながら夕食を楽しみ、静かに就寝。31日は6時15分からトレッキング。高い林の上の方、ブラックモンキーが枝から枝へ飛び回る。眺めのいい場所まで登り休憩。海に向りケムンジャナン島のバルパン山が美しい。更に歩くと小さな墓のようなものがあり灰色のモンキーがぞろぞろ、食物を目当てに沢山やってきた。シリブカガシの仲間やホウオーボクが多い。2時間ほどのトレッキングを終えて宿舎に帰った。12宿舎を出て、島の西海岸を経由してテンバザールへ。夜はケチャツクダンスを見て、11月1日早朝のガルーダ航空便で帰国した。

11月5日、6日は関西ブロックの100周年大会。関西支部70周年にもなるそうだ。5日、紅葉の美しい高野山、2時から高野山大学で奥山直司氏、田中理典氏の記念講演があり、遍照光院へ移動。夜は精進料理と般若湯を楽しんだ。6日は6時半から読経があり、7時半朝食、8時集合、各コースごとに写真撮影があり、コース別に出発した。私はBコース女人堂に参加、高野山は何回か来ているが、高野三山は初めてだ。8時20分宿を出発、まず金剛三味院で日本で二番目に古い多宝塔を見て、円通律寺前を過ぎ、10時50分、1004mの摩尼山。11時半1008.5m、三等三角点の楊柳山、ここで昼食を取り、13時、910mの転軸山、更にゆるやかな道を歩いて、14時15分女人堂に着き解散となった。早速宿に帰り、関西の山岳会の車で出発。途中夕食をとり、19時、奥吉野湯盛温泉の杉

の湯に着いた。ここは何年か前、関西支部の大台ケ原登山で泊まったところだった。熊本支部の廣永、安場、私と計5人、7日はゆっくり出発。10時半には大台ケ原駐車場に着いた。天気良く、展望台でゆっくり過ごし、12時過ぎ一等三角点1696m日出ノ岳に着いて昼食。正木峠、正木ケ原、牛石ケ原を過ぎ、14時半大蛇気を歩き、1時駐車場に戻った。ここから約1時間、大峰奥馳けの一つ、大普賢岳の登山口、和佐又ヒュッテに着いた。途中の谷間の紅葉は最高だった。8日は大普賢岳登山、連日の登山で疲れているので、私は笙の窟まで歩き独り下山。途中1344m三等三角点の和佐又山に登り、11時半宿舎に戻った。15時半過ぎ5人を乗せた車は出発。橿原神宮近くの近鉄の駅まで送っていただき、楽しい4日間は終わった。23日はいい天気、久しぶりに根子岳東峰に登った。紅葉が美しく、牛がゆったり草を食べていた。27日はアルコー会のお萩山登山、やっと熊本市内も紅葉が始まった。

12月は4日、植物を見ながら小島上町から権現山へ登るが小雨となり、右手の神社の大木を見て下山、坪井橋を渡り御坊山へ。50m程の御坊山には小島阿蘇神社があり、小さいながら原生林の山。平成10年の台風18号で20本の大木が倒れたとはいえ、可愛い森といった山だった。

こうして、2005年の山行は終わったが、山岳会100周年の年でもあり、色々な人々との出合い多い楽しい一年だった。

雑 感

8411 松本完爾

約40年間の教員生活を終え、毎日の生活がサンデー毎日となったこの一年。振り返ってみると忙しい朝の様子から、今は毎日日曜日のようなのんびりとした日々の連続です。それもやっと慣れた今日このごろですが、初めの内は今まで家庭のことは何もしてこなかった事に責任を感じ、庭の草取りや、朽ちかけた家屋の修理等に時間を費やしていました、それも慣れてくると「明日でいいや」と先延ばしの感はゆがめません。

定年になったら、あれもしたい、これもしなければと思いつつも必ずしもすぐ実行に移れない何かがあるような感じです。じっくり何をすべきか考えようと努力はするものの「先延ばし」の毎日です。この1年は何もしないで「ゆっくりと考えよう」というのが信条でしたが、さてさて、今からは何かをしなければと考える日々ではあります。やはり長年続けていた山登りが中心になるものと考えています。私が初めて山登りをしたのが小学4年生でした、本格的に登山をする高校生までは悪ガキの遊びレして「メジロ取り」や「山芋堀り」が主流でしたが、友達と登った霧島が本格的な登山となり、以来休みとなれば、自転車で出かけたり、アルバイトの資金をもとに「阿蘇」や「九州の山々」をガムシャラに登り続けました。当時、漠然とではありますが、将来山登りを続けて行くにはどんな職業がいいか、考えたものです。結果的には教員が一番時間がとれるだろうということで運良く教職に就

くことが出来ました。

念願の教職に就いてしばらくすると、当時、発足した高校登山部の顧問としての活動が始まりましたが、手探りで登山をしてきた私にとっては、かなりの負担がありました。登山未経験の生徒でしかも教育の一環としての集団登山は未知の世界であり、安全と指導という立場でどう対処すればよいか、不安の要素が入り交じった山行ばかりでした。ただ当時は山に登りたいとの一心から、真剣に考えたことはなくとにかく近くの山にせっせと登山をしたものです。

丁度その頃、北アルブスの薬師岳で愛知大山岳部の遭難を初めとして、朝日岳の 高校生遭難等が発生しいろんな山の事故が多発しました。学校からは当然、活動自 粛の要請があり、山岳部活動に支障をきたす状況が生まれてきました。ただ当時は 日本の山岳界は全盛期を迎えており、登山熱は益々燃え上がりつつありました。そ の頃から引率をする生徒(部員)の安全と正しい登山活動を伝授する責任が重くな りました。

当時地域山岳会の会員として岩登りや冬山に熱中していましたが、山の基本を勉 強するためYMCAの登山教室や市主催の野外活動研修会、さらには全国高体連の 登山研修会、富山の登山学校等の研修会、さらには日赤の救急員資格取得など必要 な研修会へ参加するようになりました。この頃の山岳部員は常に10数名の部員を 要しており、様々な登山活動には最適な人数でした。学校の自粛要請とは事腹に当 山缶部の活動は益々福金にしていき、年…回の北アルフスの夏季合宿を実施し始め たのもこのころです。登山を始めたばかりの生徒に登山の魅力を満喫してもらいた いと始めたこのアルブス遠征は、自分にとっても生徒にとっても楽しみの行事とな り、3000m級の山岳に魅了され、登山意欲をかき立ててくれました。その後、 合宿に参加した部員の多くは山を忘れずに今も黙々と自分なりの山行を楽しんで おります。学校登山はクラブ活動の一環として活動してますので、県の高校体育連 盟に加入し予算ももらっていますのである面ではアスリートとしての競技性を持 たなければならない部分があります、当然ながら県の高体連登山大会や国体登山競 技にも参加し、登山本来の意味からはみ出した部分に疑問を感じながら競技登山を しなければならない事もありました。自然を満喫するアウトドア活動と競技登山の 狭間で生徒に何を求めるか、苦悩は続きました。やもすればスタンドプレーに走り がちな競技登山は山の愛好家、登山家として、山登りの邪道として受け入れがたい。 物がありますが、あえて3000m級の山行と冬山を想定したトレーニングをする ことにより山への魅力、登山への意欲を持続させ、生涯スポーツとしての登山愛好 家を育てると共にそのことが安全登山を目的とした「髙体連登山大会」にもつなが ると信じ活動してきました。

しかし、近年、国体が交流会の域を脱し「完全なる競技登山」となって参加する高校生が敬遠する状況が生まれてきました。今の国体登山は登山の領域からはずれ、観客が応援できる場所と環境が優先され、とうとう山という活動場所が変わってきました。テント生活の楽しさや厳しさが無くなり、川登りとは関係ない

筋肉のトレーニングが要求され、学校登山の活動内容から大きく変わりました。 現に現在国体に参加する登山部は3分の1になり、それもフリークライミングの 参加のみと成りました。岩登りを経験してきた私たちには、人工壁の登はんはな じめません。当然、各学校の山岳部も参加しないようになってきました.

近年、中高年の登山が盛んになり、それに反比例するように、若者の登山者が少なくなってきました。高校の登山部もご多分に漏れず、小子化の波に流されて部員の確保が難しくなってきました。全盛期の頃は県内に28校もあった山岳部か現在では8校と激減しています。当然各学校の部員数も殆どが1桁の数でクラブ活動を行える状態ではないのです。これにはいろんな原因があると思われますが、小子化が影響している事はとうぜん考えられますが、何もクラブ活動をしていない若者は昔と同じくらいいるのです。その若者が何故山に行かないのか検証して見る必要があります。単なる小子化だけが原因とは思えません

昔は遊ぶところがなかったから山に入ったと言うのも違うように思えます。たしかに多様化し、社会では手軽にスポーツを楽しむことが出来る世の中になりました、そんな中、山登りに対して魅力を感じる部分が価値観の違いとともになくなってきたのではないかと感じます。私たちは若い頃に先輩に誘われ山登りの魅とが出来ました。今考えてみると、自分自身のスプリット精神もあったとは言え、山の魅力を教えていただいた先輩諸氏のリーダーシップに感謝しております。今反省すべき点は、その指導力に関し、私をはじめ我々は後輩に教えてこなかったのではなかったのか、悔やまれてなりません。

近年の高校登山部の活動は、インターハイの予選や九州大会へ向けての下見登 山や調査登山、校内では天気図作成の練習など、大会向けの活動しかしていませ ん。当然、禁止されてはいるものの、冬山(雪山)合宿を実施している学校は皆 無に等しいのです。こんな言い方は失礼かもしれませんが、現在、登山部の顧問 に登山歴のある先生が居ないのです。小子化の影響で先生の数が減り、コンピュ 一ターの導入で先生の仕事が増えたせいもありますが、先生に余裕が無くなった ことも否定できません。生徒たちは誘わなければ入部しませんし、山に連れて行 かないと何もしません。自分から入部し山に登ることをしませんから、先生が誘 わなければなりません。今、中高年の登山ブームではありますが、その余裕ある 時間がそうさせているのかも知れません、一時期は余暇の活用を推進した教育制 度に変わり、週5日制が発足しましたが、先生達にその余裕ある余暇の利用が有 効に活用されていません。それはやはり次のリーダーを育ててこなかった、自分 たちにあるように感じられます。現在、退職後も高校生をつれて山に行っていま すが、子供達は喜んで参加してくれています、残念ながら新しい生徒を勧誘する 場所を持ちませんので、先生の努力によって沢山の高校生に声を掛けてもらうの みです。今はそんな地道な活動にしか手伝いが出来ませんが、何とか若い子供達 にこの登山活動を通じて、失われつつある心の豊かさとこの自然のすばらしさを 体感して欲しいものです。

中央分水嶺を歩く

本 田 誠 也

平成17年11月20日、熊本支部が担当する中央分水嶺の踏査が終わった。 前年の3月23日、北側の起点となる瀬の本高原を歩き出してから、南側の終点 となる白髪岳山系の八ヶ峰山麓まで、約1年8ヶ月を要した。総延長144Km(類構 180km) GPS測定点 99(迦は 13をむ)を28回に分けて、延人数18**9**人で歩い た。この間の分水嶺の形は、いろいろと変化の多いものだった。瀬の本高原から 阿蘇外輪山の外縁を形成する端辺原野、波野ヶ原、山東原野の連なりは日本離れ のした広漠。「日本百名山」の著者、深田久弥を感歎させた風景である。熊本宮 崎県境となる九州脊梁山地は、五家荘、椎葉、米良荘など九州の秘境に囲まれた 奥深い山域である。また深田久弥が「念頭にあった」としながら登らなかったた め、百名山の選に洩れた名峰・市房山から分水嶺は南西に転じる「梟儒の分水嶺 は支谷が多く、烈しく蛇行してルートの判断に迷った。変わり種としては、阿蘇 高森倶楽部ゴルフコースのグリーン、湯前町横谷峠の廃屋、槻木峠トンネルなど があった。熊本支部が担当する分水嶺区間は、当初 KO86 箱石峠(M��)からK176 茶屋原(スロクホラ)となっていた。支部で詳細に検討した結果、夫々県境となる瀬の本 高原を起点に、川内川・県境林道を終点とするよう提案して了承された。また分 水嶺の核心部となる九州脊梁山地は熊本・宮崎県境になるが、熊本支部で担当す ることになった。これは宮崎支部の担当区間が、鹿児島県の大隅半島を縦断する 長遠なコースであるためと思われる。計画段階ではGPS測定の効率化を図るた め、A、B2班編成で実施する予定だった。しかし、平成16年秋に熊本支部が 主管する全国支部懇談会を控え、工藤支部長はじめ全員が準備に追われていた。 取り合えず、加藤功一会員をチーフとする1班だけで実施することになった。

北から南へ分水嶺踏査の前半は、瀬の本高原から阿蘇外輪山の半周で道路部分が多く比較的順調に捗った。しかし、宮崎県境の山都町から九州春梁山地にかかるあたりで、春梁名物のお鈴さん(ススタケ)?に取り憑かれ悪戦苦闘することになった。また、2年続きの台風被害で林道が各所で崩壊し、分水嶺への接近が困難になった。県南に移行すると、往復300kmを超えるドライブで時間的にも経済的にも負担が増してきた。日帰りだと何時も深夜帰宅になるので、幕営(テント)や山小屋泊まりで時間を稼いだ。平成17年5月4日、12名を動員して、あさぎり町の白髪岳から八ヶ峰を経て川内川の県境林道に下った。指定されたGPS測定点の踏査は終わったが、林道崩壊で接近できなかったラインが数箇所残った。

踏査班の主要メンバーがネパールビマラヤ・トレッキングから帰国するのを待ち、10月末から踏査を再開した。

第28回目の最終日、A班4名は、水上村の湯山峠952mから江代山1613mへ。B班5名は多良木町・湯前町境界の花立山1106m 南西尾根へ向かう。踏跡すら無い難コースだが、B班は13時25分、花立山にゴールイン。続いてA班も14時25分、終点の江代山に到着した。A班はセンツキ谷を下ったが矢立開拓まで迂回したので、水上村役場で待つB班と合流したのは17時を過ぎていた。お互いに長途の労をねぎらいあい落日の球磨路をひた走って帰路についた。踏査期間を通じて26名の会員が参加したが、全期間参加したのは本田と加藤(外)の2名だった。また女性が7名、70代以上の参加者が4名いたことも付記したい。最後に、長期間にわたり参加された会員、会友の皆さんのご協力に深く感謝する。

『分水嶺の水系…2』

球磨川 (熊本県)

九州山地に発し、人吉盆地を西流し八 代平野を経て八代海に注ぐ。流域面積 1880㎡で、筑後川、大淀川に次ぐ九州 第三の大河。総延長115km 支流80 最 大の支流、川辺川(砥 48.5km) は九州 脊梁山地の国見岳に発し五家荘、五木 を経て人吉市で合流する。球磨川源流 は白鳥山に発し、水上村の市房ダム湖 を経て人吉盆地を西流する。中流域は 日本三急流の一つと云われる峡谷とな つて八代市の河口に至る。分水嶺のG PS測定点は、K130(機株) から、K168 (は紙・三機性)まで 41ポイント 総延長は約72 Mmに及ぶ。

耳川 (宮崎県)

椎葉村北西部、九州山地(三加) に発し 日向市美々津で日向灘に注ぐ。流域面 積 881km 総延長91km 分水嶺のGP S測定点は、K128(向加) から K146(欝 心)まで 20ポイト 総延長は約30km 国見岳を中心とする九州脊梁山地の東 側の水系を占める。

一ッ瀬川 (宮崎県)

宮崎県北西部、椎葉村南部の九州脊梁山地(江代山)に発し、市房山系の水を集めて東流する。一ッ瀬ダム、西都市を経て佐渡原町、新富町で日向灘に注ぐ。総延長91m流域面積786 km 分水嶺のGPS測定点は、K147(近仙)から K1575(紫海)まで、12ポノト 約26km

大淀川 (宮崎県)

宮崎県南西部から中南部を流れる。筑後川に次ぐ九州第二の大河。都城盆地を経て宮崎市で日向灘(太平洋)に注ぐ。総延長107km 流域面積2230km 分水嶺のGPS測定点は K1575(県場)から K172(小峰・ 県 横) まで15ポソト 約30km 分水嶺の水系は、支流の綾北川(槻木川)と岩瀬川である。

川内川(鹿児島県・宮崎県・熊本県)

熊本県白髪岳に発し、大口盆地を経て東シナ海に注ぐ。流域面積1610km 総延長137km 分水嶺のGPS測定点は、K169(白鮭) からK172(小峰・巣城道)まで、4ポハト総延長は約6km 源流域は狗留孫渓谷と呼ばれる深い峡谷をなす。

『分水嶺を歩く』…(20)

昨年夏の台風被害で不通になった椎 矢林道は、当分復旧の見込みがないと 云う。この山域に登山者の姿を見かけ なくなって久しい。やむを得ず分水嶺 踏査を県南に移したが、夏場になれば 脊梁山地の踏査は一層闲難になる。そ れで可なり迂回することになるが、北 側から分水嶺に接近するルートを選ん からのルートである。清和文楽館での 待ち合わせと、打合せに時間をとられ 稲積山登山口(970m)に着いたのは予定 を一時間も過ぎていた。台風被害で寸 断された林道を経て、急峻な藪の切り 分け道を登る。9:30~11:15 かっての 駄道(上糠~知)の憩場、久保の息(よご)) 1434m に着いて昼食休憩… ここから 分水嶺到達点の椎矢峠(1430m) まで 3 **翔余は、廃道になった林道を歩く。切** 剥(1530m) から分水嶺となる三方山登 山口までは北内谷の源流域で、まだ芽 吹いていないブナ林が続く。林間にマ ンサクの花が春の彩りを添える。 13:42 椎矢峠に着く。矢部側(棚)に通 行止めの標識が立てられていたが、全く登山者が来た形跡がない。峠の掘割から分水嶺伝いには登れないので200mほど椎葉側に下ったところから小谷の左岸の尾根に取り付いて登る。約30分でブナの大樹と、丈の低いスズタケが密生する高岳の広い山頂に着いた。

| K1325(

| 大会の | K1325(
| 大会の | K1325(
| 大会の | K131° 02′ 26.*20′ A-2 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:35 | 16:

『分水嶺を歩く』…(21)

平成17年4月29日 K137(峰越梯道)~K142(不过野株) 2.57図「不上野」

参加者 加藤功一 (11771) A 射 永谷誠一 (12909)

- L. 石井文雄 (13852) 安場俊郎 (13889) 緒方 隆 (14119) 村尾保義 (会 友)
- L. 本田誠也 (5421) B 班 加藤 明 (13845) 加藤百合子(会 友) 計 9 名

記録(AM)加藤功一(BM)本田誠也

先日、未踏査区間最大の難関(K131-新)をクリヤーしたので余勢を駆って 連休中に最終のK点(躰/蟷螺) まで行 こうと計画した。分水嶺へのアプロー チは林道が殆ど不通なので、事前に道 路情報を調べ通行可能な道路を繋ぎ合 わせて行くことにした。勿論、安全対 策には最大の注意を払った。6:00熊本 発。熊本、人吉間は九州自動車道を利 用する。7:50水上村役場で道路情報を 聞くつもりだつたが、休日の早朝で誰 もいない。国道(R-388) で市房ダム湖 を経て 8:40 湯山峠を越え椎葉村に入 る。谷間の国道(R-265) 分岐から合戦 原(かばる)を経て 9:05 飯干峠を越え椎 葉村最奥の集落川の口へ下る。ここか ら狭い村道(川の場)で 10:00分水嶺(川の日 ⅰ)を越える。崩壊を免れた県道43号線 の上部に下り10分で車の通行が絶えた 不土野峠に着いた。ここからほぼ主稜 線(分水嶺)沿いに北上する林道・梅の木鶴線に入る。約20分で林道(樹線?)分岐。徒歩の先導者に従って、のろのろと林道を上がる。11:20 銚子笠西尾根の登山口に着いた。車を置いて踏跡も定かでない急斜面を登る。12:00 銚子笠山頂に着いた。

 K139
 銚子笠(点名
 総股)△□ 1489m

 銷
 12:00
 解
 131°01′11.1′ B-2

 出
 12:20
 場
 32°26′19.4′

ここで北上するA班と、南下するB 班が別れる。

(A班の記録) 脊梁山地に詳しい長老の永谷会員(80才) がリードする。不完全ながらスズダケが切り分けられた尾根を北上する。約2.5km 一時間で県分越に着く。現在は廃道になつているが戦後の昭和30年代までは、上椎葉から熊本県の古屋敷へ越す大事な交易路であった。

 K1385(県分越)
 1457m
 …K点追加

 銷
 13:15
 報
 131°00′59.30′
 B-1

 出稅
 13:20
 27′18.10′

ここから白鳥山三角点までは一投足 の距離だが、踏跡が錯綜して時間を取 られた。

 K138 白鳥山(鮎 社野)△□ 1643m

 蛸 13:53 「軽 131° 00′ 49.70″ B-1

 出税 13:55 「お 32° 27′ 45.40″

山頂周辺に山シャクヤクの群生地あり。地図には山名の記載がないが、九州では貴重な1600mを超える山上台地上には石灰岩の山特有なカルスト地形

やドリーネがある。地図に「御池」と記載された地点は石塔が乱立する窪地のカルスト地形を指しているが、一般には西側の広い湿地帯の呼称である。山頂から御池へ下る中間の唐谷登山路分岐に「左中将・平清経住居跡」の標柱がある。五家荘や椎葉地区に多い平家伝説の一つであろう。

K1375 (御池) 1560m

 銷
 15:14
 東経
 131°00′58.50′
 B-1

 出発
 15:17
 北緯
 32°27′59.50′

先に白鳥山は地図に山名の記載がないと書いたが、新しい2.5万図(報13年1月新)には白鳥山と記載されている。ここで修正しておきたい。かって私(本町)が国土地理院のマップモニターをしていた時、何度か山名の記載を求めた事があった… これから峰越林道の峠までは、永谷グループにより縦走路を伐開しているので快調に飛ばす。因に御池北側の斜面は希少植物「キレンゲショウマ」の群生地で、青いビニールネットで保護(෩健)されていた。

K137(峰純林道・県境峠)1486m 林道脱通記2時あり 蛸着 15:55 乗経 131°00′43.80′ Λ-2 出発 16:17 北緯 32°28′53.60′

斜陽を追いかけるように、往路をバックする。銚子笠登山口の駐車場に帰り着いたのは薄暮の 18:55であった。 早速、携帯電話でB班に連絡する。国道 265号線の飯干峠で幕営していることを知り、夜道の林道を慎重に下る。 標高 1050mを超える飯干峠で待つB班と合流したのは 20:30を過ぎていた。

(B班の記録) 銚子笠山頂で分水嶺を 北上するA班を見送った後、車を置い た南西尾根の林道まで下る。銚子笠か ら南下する分水嶺(驥颸)の鞍部1250m までは、数年前の「県境の山」縦走の 際歩いている。そこまで車を廻すつも りだったが、錯綜する踏跡に惑わされ て北寄りの小谷に下ってしまった。 地図に記載されていない林道を延々と 登り返して約2時間近いロスタイム… 15:00 やっと駐車点に着いて南下を開 始する。先ず 2.5 履 (社野) の南端に近 い K140(蒕 」が)行くつもりだったが、 2.5 個「協」北端の不土野へ分水嶺を越 す林道分岐までオーバーラン?をして しまった。止むをえず分岐路に車を置 き、分水嶺(驥醐)を北へ登る。

K140(点名 編) AN 1154m(地図 1144m) 蛸 15:45 東 131°02′26.6′ B-2 出 15:50 北 32°24′52.5′

2.5個「は別の不土野峠から、分水嶺 (類解)に入る。不土野峠以北の分水嶺 は(株)日本製紙の持山になっている。 尾根筋は殆どスギ、ヒノキと闊葉樹の 混交林… 林床のスズダケは、増えす ぎた鹿の食害を受けて笹がついていない。・1222m標高点は台地状に尾根が広がり、目印となる標石もないので随分 時間をかけて探した。結局、県境標と 山林界標のある辺りでGPSの計測を した。

K141(水上村/椎葉村)・1242m …地図1222m…

 蛸 17:00
 郵 131° 02′ 37.0′
 B-2

 出税 17:05
 北韓 32° 24′ 28.7′

分水嶺を北上し西側の林道に出るまで約一時間を要した。予定時刻を大きくオーバーしたので飯干峠で幕営することにして、川の口越手前の小谷でポリタンに水を補給する。飯干峠に着いた時点でA班と連絡がとれ、テントを張って炊事にとりかかる。

『分水嶺を歩く』…(22)

平成17年4月30日 K156(概論)K162(機構)~K163(顯論) 2.57國「福山」(知

参加者 加藤功一(11771) A班 永谷誠一(12909)

71 E (12000)

安場俊郎(13889)

本田誠也(5421) B班

加藤 明(13645)

加藤百合子(会友)

L. 石井文雄(13852) サホート 緒方 降(14119) 村尾保義(会友) サホート 9名 記録者 加藤功一(A班)本田誠也(B班)

早朝、6:50 飯干峠のキャンプを出発する。湯山峠、市房ダム湖を経て湯前町に下り自動車の燃料、行動食の補給などをして 8:50 多良木町の槻木峠(トンネル)…分水嶺… に着いた。

 K162(機木峠トンネル)755m
 …馬頭観音の石祠あり…

 9
 23.60′

 A-1

 出発 9:10
 北緯 32° 12′ 58.50′

(A班の記録)トンネル上の旧道から 分水嶺を南下する。黒原山までは、サポートの石井、緒方も同行する。

 K163 黒原山(点山山)
 All 1019m

 第 9:50
 報 130°59′2.80′B-1

 </

三角点標石は東側上部欠落。山頂東 側はヒノキ林… 西側球磨盆地の展望 がよい。山頂には、山の神と石の地蔵 様が安置され保健保安林の標識が立て られている。南西へ下る広い分水嶺を 見渡して、サポートの2人は槻木峠へ 引き返す。尾根筋がはっきりしない広 い斜面を下って地図上の 891m 標高点 付近に出たところで、踏跡が不明瞭な 分水嶺を離れ西尾根へ迷いこんだ。 ルート探索に時間をとられ、尾根を越 える林道に出た所で分水嶺踏査を断念 した。サポート班に連絡して林道(額) **蹴檤)を下る。15:00 過ぎ、宮麓の岡** 原観音堂で待ち受けていたサポート班 とB班に合流した。

(B班の記録) B班の踏査予定は第16回分水嶺踏査の際の未了部分(K161粒油~K162概株)のライン。および、第19回(K155點職~K157概株)のK156横谷山K点とラインを歩くことであった。A班と分かれ槻木トンネル北側入り口から分水嶺に沿って北上する林道に入る。林道は崩壊箇所があり「全面通行止」になっているが、800mほど入った所に「国土交通省・黒原中継所」があり車を置いて歩く。地図上に東西に分水嶺を横断している送電線がある。九州電力の(木上柄)線(60,000V)で47号鉄塔が分水嶺上に立っていた。

九電・送電線47号鉄塔 871m

 <t

分水嶺南側の槻木峠との間に小高いピークが見えるので、分水嶺ラインに沿って直登する。山頂部はスギ、ヒノキの混交林。これは根張りの浅いスギを守るためヒノキを混ぜると聞いた。

送電線路南側のピーク 926m

 蛸
 9:50
 軽
 130° 59′ 34. 7″
 B-2

 出発
 9:55
 北緯
 32° 13′ 08. 1″

再び北へ転じて送電線をくぐり、平成11年に新設された(熱 株)の 4等三角点を目指す。広く伐採されたピークを越えて緩やかな下り… 鞍部からスギ造林地を少し登ると、疎らにヒノキが生えた山頂に出た。南北に細長い山頂部の中央に三角点の標石があった。

K1615(点名 概木) AIV 897m …K点を追加する…

 蛸
 10:47
 軽
 130° 59′ 39.6′
 B-1

 出業
 10:49
 北緯
 32° 13′ 27.9′

眼前に槻木川源流域の谷を隔てて、 花立山の大きな山体が見える。932m標 高点まで行きたかったが、11時に槻木 峠でサポート班と合流して横谷峠へ行 く予定なので断念する。11:10 槻木峠 サポート班 2名(研、紡) と合流する。 柳橋川沿いの県道を下り、湯前町市街 地を経て分水嶺の横谷峠へ上がる。 閑散とした峠の道路脇で昼食の後、車 3台に分乗(6名)して分水嶺に沿う私設 林道黒仁田線(上紙紙)で峠(787m)まで行 く。峠で2班に分かれて、1班2名(本 田 臓長) は先日中断した黒仁田越(700 m)まで下る。分水嶺の東側は伐採跡の 低い灌木林、西側はスギ、ヒノキの植 林地。20分で K155(點職) に着いて折 り返す。一方2班4名(研、臓り、結、梶) は、K156(松山) を目指して南下した。

K156(横谷山)・908m …地図では900m…

 銷 13:30
 軽 131° 03′ 15.1′
 B-2

 出発 13:35
 北韓 32° 16′ 00.5′

台地に出た。峠のお婆さんが教えてく れた送電線の鉄塔が立っている。標板 には(

// には(根の宮崎県側はヒノキ、スギの植林地 熊本県側は自然林(上)(株)で、その境目 に沿って登る。地図の・900m 標高点に 近かずいた所に丸い土盛りがあった。 山林界『山』の標石が埋められており ここが横谷山の山頂らしい。枯れ草の 上に座り込んでランチタイムとする。 昼食後、全く踏跡が消えた県境尾根を 北上する。藪分けをしながら緩い下り 約30分で、西から東へ尾根を越える (私設黒仁田林道)の峠に出た。 2班は往路を折り返して峠に下り1班 と合流した。14:10 横谷峠に帰り着い たところで、A班から連絡が入った。 「黒原山から分水嶺を南下する時、ル ートを誤り西側の宮原谷へ下ってしま った」と云う。現在地がよく分からな いが、雨模様の天候になったので谷で はなく林道を見つけて下るよう指示し て横谷峠を後にする。あさぎり町宮麓 から黒原山環状林道に入り、岡原観音 堂の駐車場で捜索?の準備をしている と、15:00 最高齢の永谷会員が駈ける ように降りてきた。黒原山から分水嶺 は南西に下っており・891m 標高点まで は行けたと思うが、それから90度も 西へ折れた大尾根に入ってしまったよ うだ、それに雷雨注意報も出ていると 聞いたので踏査を断念したと云う。 予定の半分も行けなかったが、急ぐこ とはない、安全第一だと無事を喜びあ い帰路についた。

『分水嶺を歩く』…(23)

平成17年5月3日 K164(城槌)~K167(帕毙)

2.5 個 知 自結

参加者 L.加藤功一 (11771) A 班

永谷誠一 (12909)

安場俊郎 (13889)

緒方隆 (14119)

本田誠也 (5421) B 班

田上敏行 (6659)

松本莞爾 (8411)

藤本多加志(10422)

L.加藤 明 (13845)

中根俊男 (会 友)

椎葉幸介 (会 友) 11名

記録者 加藤功一(AM)加藤 明(BM)

ラインの未了区間はあるが、K点の 計測は終わらせようと今回もキャンプ して踏査を計画した。九州自動車道の 山江PAに 8:00 集合。踏査順路を打ち 合わせた後、キャンプ予定のあさぎり 町ビハ公園キャンプ場に直行する。 9:00 ビハ公園キャンプ場。連休に入 り、子供連れの多くのキャンパーで賑 わっていた。ここは翌日の白髪岳登山 口でもあり便利がよいので選んだ。子 約を済ませ車の調整をして出発する。 10:00 皆越の清願寺ダム通過… 左岸 の県道は崖崩れで不通のため右岸の林 道を行く。有名な皆越鬼子母神を経て 10:30 分水嶺の小白髪林道分岐に着い て車を置く。ここは K166(槌) の K 点になっているが、B班が後で計測す ることにして、夫々踏査に向かう。

(A班の記録) 林道分岐に車を置き、 先日(4/30)ルートを間違えて踏査を中 断した K164(城道) へ、逆路を北上す る。この区間は多良木町と、新たに統 合された「あさぎり町」の境界線にな るが、ほぼスギ、ヒノキの植林帯で林 道(蠍に謎されていない) も多く、尾根筋や谷 線も入り組んでいて分水嶺の判定が困 難な地形である。

K165(点名 小野·・この) A■ 873m 分水嶺より西250m

このK点は、分水嶺上ではなかった。 先日の汚名?をすすごうと最強メン バーで臨んだが、複雑な地形に惑わさ れて藪漕ぎもあり時間をとられた。な お途中の・848m標高点付近に(貌柳 雌 離腫)があった。

(・848m標高点)・855m ※多良木町地籍調査・角点あり 雖 13:15 軽 130°58′57.40′ 出発 13:20 北緯 32°11′19.10″ この辺りは雑木林で、北方に黒原山 の大きな山体が望まれた。

K164(大塚林道) 725m ※大塚林道の標柱あり

この区間の最低鞍部になるので展望 は広くない。到達時刻が予定を大幅に 超えたのでB班に連絡して、直ちに往 路を引き返す。

(B班の記録) A班の出発を見送って 11:10 小白髪岳の北尾根に取りつく。

分水嶺上に新しい三角点(蒕 鬴 Ⅳ) が 設置されている筈なので、文字通り草 の根を分けて探したが見つからない。 帰りに再度探すことにして先を急ぐ。

山の神(988m) ※大造の山神祠あり…ご神体なし 雖 12:05 離 130°58′53.37″ B-2 出発 12:35 北緯 32°09′46.7′

山神祠の前で昼食をとり出発する。 北から南西に弧を描く小白髪岳の山稜 (分編) は、北西の球磨盆地から望むと 免田川の奥に半月形の大きな姿を見せ る。大らかな山容に似ず分水線の形は 微妙である。山頂三角点から北東に向 けて微かに尾根が分かれている。緩や かに下る西側の尾根が分水嶺で、山の 神を経て小白髪林道分岐の峠に至る。 小白髪岳は頂稜部分を残して、すつぽ りとスギ、ヒノキの植林に覆われてい る。小一時間の登りで西側の展望が開 けた山頂に着いた。

K167 小白髮岳(啟 岶鋸)A▮ 1184m
 銷 13:25
 賴 130° 58′ 43.9′
 B-2
 13:40 北韓 32°09′22.4″

30m ほど南側の方が少し高いような のでGPSで計測してみる。1189m と 5mの差が出たが、目測ではそれほどの 差はないように感じた。山頂はバイケ イソウの群落と、東側にブナの大樹が 立っている。2001.4.15 に、初めて小 白髪岳に登った時、山頂でツツガムシ にたかられたのを思い出し、早々に下 ることにした。25分で山の神に着く。 ・林道分岐の上で再度「高滝」の三角点

『分水嶺を歩く』…(24)

平成17年5月4日 K168(三池神社)~K172(熊本/宮崎県境林道) 2.5万図 三白髪岳

参加者 本田誠也 (5421) 踏號

L. 加藤功一 (11771)

永谷誠-- (12909)

加藤 明 (13845)

安場俊郎 (13889)

緒方 隆 (14119)

椎葉幸介 (会 友) 7名

L. 田上敏行 (6659) サポート班

松本莞爾 (8411)

廣永峻一 (10080) 藤本多加志(10422)

中根俊男 (会 友) 5名

記 録 加藤功一

7:40 猪/子伏登山口に到着。約30分で猪/子伏(1233m)山頂に着き「自然環境保全地域」に指定された広いブナ林の山道を緩やかに登る。分水嶺になる山頂台地に近ずくにつれブナなどの大樹の倒木と、枯死したスズダケの惨状が目立つようになった。スズダケは

何年周期かで枯れると聞いていたが、 30~40Cm から上の笹の部分が無いので 或いは鹿の食害か…

 K168(三池神社)1362m
 ※以前より一回り小さな社園

 強建 9:35 東経 130°56′33.70′
 A-1

 出発 9:50 北緯 32°9′23.80′

北麓の皆越地区の人々の尊崇を集めている三池神社は地名の由来となった窪地の中にたっている。ここは厳密に送れている。と分水嶺より30m ほど西に逸れている。地図にある皆越からの破線の参道(雌)はない。東側の小白髪岳へ続はの分水嶺は、北側の免田川(塘川城) 原流と、南側の白水谷(岩側域) に浸食をれて複雑な地形を成している。このくれて複雑な地形を成している。このくれて複雑な地形を成している。とにしたい。スズダケの惨状は山頂に近ずくにつれ一層酷くなる。

K169 白髪岳 A1(棹) 1417m

 蛸
 10:15
 軟
 130° 56′ 36.20′
 A-1

 一
 10:25
 力
 32° 9′
 1.40′

分水嶺としては、国見岳と共に1等 三角点本点の山である。参加者最年長 の永谷会員(80才)の発声で高らかに雄 叫び(全ロール)をあげる。山頂には陶板 の案内盤が埋め込まれている。これは 白髪岳が佐賀県有田町の黒髪山と姉妹 提携した記念に、有田町から送られた ものだそうだ。早朝、熊本市から駆け つけた廣永会員も入れて全員(12名)の 記念撮影後、踏査班(7名)とサポート班 (5名)は南北に分かれ山頂を後にする。 ノリウツギとリョウブの疎林の中、 踏跡も定かでない尾根を下る。途中の 岩陰に毛皮をつけたままの鹿の死体を 見た。尾根が広がりブナ、モミの林の 間にミツバツツジの鮮やかなピンクの 花が美しい。明るい林床はコバイケイ ソウの大群落… 鞍部に下り、南東側 へ僅かに登り返すと国見山の山頂に着 く。灌木の枝越しに白水谷を隔てて小 白髪岳が三角錐の山容を見せる。

 K170
 国見山・1228m
 粉水線の頼200mにあり

 蛸 11:45
 軽 130° 57′ 16.10′ B-1

 脱 12:15
 ぱ 32° 8′ 16.40′

いよいよフィナーレ。しかし比高差 300m余、約2Kmの下りは容易ではなか った。西の八ヶ峰川と、東の岩瀬川へ の林道が交錯し、藪も濃密で前進を阻 んだ。最後は、元気な安場会員と緒方 会員の2人が、分水嶺ラインを克明に 辿って県境林道に到達した。

K172(県境林道)663m ※宮崎県側ゲートあり。

 蛸
 16:10
 軟
 130° 56′ 33.80′
 B-3

 出院
 16:20
 北牌
 32° 7′ 66.00′

八ヶ峰川が川内川に合流する県界の 両国橋で、待ち侘びるサポート班と握 手を交わしたのは17時を過ぎていた。

ここは「月明学校」(呈遺猪)で有名 になった八ヶ峰の集落があった地であ る。戦前から上村小学校・八ヶ峰分校 が置かれ、三上秀吉、慶子の親子が教 鞭(1944-1951) を執っていた。その当 時の分校のたたずまいや、四季折々の 山村の風景、山仕事に明け暮れる人々 や子供たちとのふれあいを書いたもの として高い評価を受けた。その著書を 読んだ皇太子(躰の天蝉下) の英語教師、 バイニング夫人も訪れたと云われる。 今は知る人も少ないが山中にひっそり と記念碑が建てられている。宮崎支部 では今年の1月、白髪岳の集中登山を 実施されたが、並行して白髪岳~八ヶ 峰の分水嶺踏査を行いデーターを送っ ていただいた。これで北の出発点から 南の終了点まで、分水嶺踏査は終わっ たことになる。しかし完了ではない… GPS計測洩れのK点が三つ(K140 K1 46 K166)と、歩いていない区間(ライ ン)が三ヵ所残っている。出来れば年 内に完了させたいと考えている。再度 会員の協力をお願いしたい (細・記)

『分水嶺を歩く』…(25)

先般(5月4日)大挙12名で実施した最終ラウンドで、総べてのK点測定は完了したと思っていた。ところが K167 小白髪分岐(槌)に駐車したので、南北に分かれたA、B班のどちらかがやるだろうと互いに譲り合い、データーを漏らしてしまった。それで小白髪岳〜三池神社のラインの未了区間と併せて再度歩くことにした。3人なので車一台で行く。あさぎり町皆越林道の上部で時ならぬシカ狩りの一団と出会った。

K166(柏髪)被) 832m

 蛸
 9:20
 軟
 130° 58′ 58.00′
 A-1

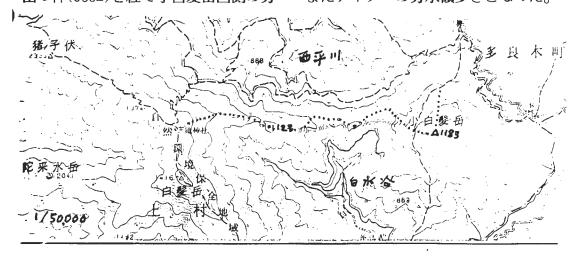
 此
 9:35
 力
 32° 10′
 9.00′

山の神(988m)を経て小白髪岳西側の分

水嶺分岐(1100m) まで全員で行く。 11:00 サポートの本田は、ここで引き 返す。西へ約3 駅の分水嶺は起伏の大 きなヤブとイバラの尾根である。途中 二つの標高点があり、GPSで位置測 定をした。

分水嶺の北側は、免田川支流の西平川。南側は岩瀬川支流の白水谷で、いずれも分水嶺と並行して林道が通じているが、展望が利かないので方向が定まらず苦労した。

1123m 編誌・1129m 蛸 15:03 蝉 130° 57′ 21.20′ B-3 峨 15:05 増 32° 9′ 25.30′ 最終区間もイバラとの苦闘が続く。白 髪岳山頂台地付近は尾根が広がり、白 髪岳三角点に飛び出した。三池神社に 至り 17:10再度 K 点測定をする。猪/ 子伏を経て登山口に 18:05到着。また またナイターの分水嶺歩きとなった。



『分水嶺を歩く』 …(26)

平成 1 7年10月29日(土)
A班 K151(桐山)~K152(娃中尾) この区間のライン
B班 K161(花山)~K1615(株) この区間のライン
2.5 版 「柿山」「株」「焼田」
参加者 加藤功一(11771) A鴉線者
石井文雄(13852)
本田誠也(5421) B鴉線者
加藤 明(13845)

K点のGPS計測は完了したが、まだラインの未踏査区間が少し残っている。数年前、支部で実施した「県境の山」踏査でトレースしているので、その記録を充てることにしていたが、一部未踏査の区間もあるので、完全な形で分水嶺踏査を完成させようと計画した。もっとも難関だったのは、殆ど踏跡すらない市房山南西尾根 3.5kmの区間である。これには分水嶺踏査開始時から常に先頭にたって歩いてきた加藤(外)と石井の2人が挑戦した。

6:00 熊本市を2台の車に分乗して出発。人吉経由で水上村に入り、9:20 湯山の大平キャンプ場に着いてロッジ宿泊の予約をする。9:50 大平川に沿う大平林道を南下する。10:30 林道分岐(760m)に到着。ここでサポートの2名(44、14歳明) と別れ、神宮司庁林道のゲートをくぐって歩き出す。

(A班の記録)市房山南西尾根の熊本 県側は、神宮司庁の管理林になってい る。以前は伊勢神宮、明治神宮などの 標示があった。未舗装だがよく手入れ された林道を歩くこと 40分で分水嶺 に到達し、程なく K152(麺帳) のK点に着いた。前回、計測済みだが再度、 データーをとる。

K152(左重中尾) AN 1087m

 蛸
 11:58
 軽
 131° 5′ 13.90′ B-2

 設
 12:05
 以算
 32° 17′ 36.70′

広い台地の北側はヒノキ植林、南側はモミなどの自然林。これより自然林のなかの単調な熊本、宮崎県境の尾根歩きが続く。標高 1400mくらいから丈の高いスズタケが密生した急斜面になる。スズタケを分け、倒木を避けながらルートを探って右往左往する。猛烈な藪漕ぎに疲れ果てながら、やっと市房山の山頂に辿り着いた。

K151(梶山) A! 1719m

 銷 15:10
 軽 131° 6′ 3.70′ B-3

 股 15:30
 均 32° 18′ 42.10′

※ こがははいかが何度データーをとる。 花立山方面に向かったサポート班に、 携帯電話で連絡をとる。1時間で市房 神社下の駐車場へ下る。待ち受けてい たサポート班の車に乗り大平キャンプ 場へ…

(B班の記録)大平林道でA班と分かれたB班の2人(無 臁 明)は、湯前町を経て多良木町に入り県道 143号線で機木峠に着いた。11:50 峠の祠の前で腹拵えをする。12:20 前回も来た湯前飯盛林道に車を乗り入れる。分水嶺の追加K点 "K1615(醂)"の下に車を置き東側の花立山を目指して歩く。

K1615(機木) △IV 897m

 蛸
 12:30
 軽
 130° 59′ 39.6′
 B-2

 機
 12:41
 北韓
 32° 13′ 27.9′

* 飼 計
がが順データーをとる。 雑木林の中、厚い落葉を踏んで歩く。

・926m標高点

蛸 12:54軺 130° 59′ 43. 3′ B-2瞼 12:57鸠 32° 13′ 36. 4′分水嶺は東に折れ携行した2.5万図は「免田」から「槻木」に変わる。

図根三角点(地籍) 898m ※多良木町有林

 蛸
 13:16
 東
 130° 59′ 44.6′
 B-2

 出院
 13:20
 北韓
 32° 13′ 47.1′

この分水嶺は県境ではなく、多良木町内で球磨川支流の柳橋川、久米川内川と大淀川支流の槻木川を分けている。 槻木側は20年生位のヒノキ林、久米側は雑木林で、点々と山林界の標石が埋められている。林床に鹿の角が落ちていた。13:50 A班の加藤から連絡が入る。『現在 1400m付近、スズタケの藪分けで苦労している』

 ・932m 標高点 山界標石あり 935m ※センブリの群落あり

 蛸 14:13 乗経 131°00′15.1′ B-2

 14:15 北緯 32°13′59.7′

この辺りはスギ、ヒノキの混交林…ここまで来ると 30mほどの鞍部を隔てて花立山の円頂丘が眼前に迫る。サポート班のタイムリミットは 14:00 としていたので、花立山に心を引かれながら林道の車止めへ引き返す。16:30 市房神社下の駐車場にA班を迎えに行く。大平キャンプ場(泊)

『分水嶺を歩く』…(27)

平成17年10月30日(日) A班 K145(年)~K146(津港)~K147(江代山) B班 K139(蘇子笠)~K140(上水)~K1405(無) 2.57図「不上野」「古屋敷」

参加者 加藤功一(11771) A驅緒 石井文雄(13852) 安場俊郎(13889) 本田誠也(5421) B驅緒 加藤 明(13845)

昨夕、熊本市から駆けつけた安場を加え5名で大平キャンプ場出発。水上村役場を経由して、台風被害復旧工事中の県道 142号線を不土野峠目指して上がる。9:20 分水嶺の不土野県 1084mに到着。A班3名は南へ、B班2名は北へ分かれて踏査を開始する

(A班の記録) 村道「川の口線」の峠に車を置き、今年 1月22日にトレース した K145(艦) を目指して南下する。

 K145(御岳) AII 1322m 前回GPS計削絡みだが再度計測する

 到着 10:12 東経 131° 4′23.60′ B-2

 出発 10:18 北緯 32°23′29.20′

前回、津野越と誤認した最低鞍部までは 80m余の下り。この辺りの熊本県側は、十條製紙(株) の社有林になっている。自然林の斜面を少し登り返し、東へ折れて程なく深さ2mくらいの掘割道に出た。ここが津野越らしい。

K146(津野越) 1245m

 蛸
 10:55
 軽
 131° 4′ 12.30′ B-2

 脱
 11:00
 北緯
 32° 23′ 7.50′

東側の円頂丘の斜面を登る。ほぼ御 岳と同じ高さになったところで、分水 嶺は直角に南へ折れる。

 ・1322m 標高点 ※指定されたK点ではないがGPS計画をする。

 B-2

 <

自然林の広い尾根をひたすら登る。 西側、朴の木原上部の谷沿いには美しいミズナラの純林が見られる。ほぼ、 1時間の登りで台地状の江代山北東尾根に到達した。灌木に混じってブナなどの大樹も点々と立っている。

馬口岳線走路分岐 1589m

 蛸
 12:45
 軽
 131° 04′ 47.70′ B-2

 н
 12:50
 北緯
 32° 22′ 26.40′

ここまで来れば江代山は一投足の距離である。一気に山頂への木段を駈け上がる。

 K147(工代山)
 AII
 1605m
 ※再度GPS計画をする。

 3
 3
 3
 80"
 80"
 8

 13
 13
 20
 12"
 13
 60"
 60"

地図では、江代山(津野岳)と併記されている。日本山岳会宮崎支部の大谷 優氏(枞)の「みやざき百山」では地図とは逆に山名を津野岳(江代山)としている。山名の由来は熊本県側の山域が水上村大字江代にあることによる。明治10年の西南の役では、敗走する薩軍の本営が置かれた。球磨盆地から眺める江代山は、三角錐の美しい山容を示している。日本1500山を登頂された今西錦司氏も、まだ登りたい山として「江代山が残っている」と書かれ

ていた。山頂では、椎葉村から馬口岳を経由して縦走してきた小学生の一団と出会った。また、黒峰から市房山まで九州脊梁全山縦走の単独行者とも出会って話を聞くことが出来た。ともあれ、往路を韋駄天で引き返す。往路の半分、2時間で川の口(#)の駐車地に着き、15:35 不土野峠で銚子笠を往復したB班と合流した。

(B班の記録) 9:00不土野峠から分水 嶺の西側に沿う林道梅木鶴線を行く。 椎葉側へ乗っ越す林道分岐に車を置き 前回の計測点、K1405(鯖)を目指して ヒノキ林の分水嶺を歩く。銚子笠~不 土野峠の区間は、全域にわたり日本製 紙(株)社有林(間上げ)で、20m~30m おき に測量標、境界標のほか図根三角点、 国調多角点、国調筆界標などが埋設さ れていた。

 K1405(無婦) AN
 1143m
 ※計機路みだが再度データーをとる

 到着 9:33
 東経
 131° 02′ 25.6′
 B-2

 出発 9:37
 北韓
 32° 24′ 52.5′

スギ、ヒノキの混交林の尾根をしば らく進むと、10分足らずで地図上の ・1168m標高点に着いた。

·1168m標底 GPS計劃 1153m

 蛸
 9:44
 軽
 131° 02′ 23. 4′ B-2

 出稅
 9:48
 北稅
 32° 24′ 56. 0′

尾根が広がると 40~50年生の、よく 手入れされたヒノキ林が現われた。 2.5万図は「古屋敷」から「不土野」 に替わる。10:15 緩い下りで広い鞍部 に着く。西側の梅木鶴林道が接近して いるところで踏跡が下っている。 ヒノキに雑木が混じる広い尾根を緩やかに登る。やがて K140(」は)AN 1228m の三角点がある筈だと、茸でも探すように目を配りながら慎重に歩を進めたが見つからない。少し行き過ぎた感じがしたので、黄色の「日本製紙」標柱の位置でGPS計測をする。

K140(上水)仮定ポイント 1229m

 蛸
 10:30
 軽
 131° 2′ 04.00′
 B-2

 機
 10:34
 14
 32° 25′ 10.50′

ヒノキとスギの混交林となり、尾根 (分儀) は台地状に広がる。

·1274m標高点

 難
 10:45
 軽
 131° 01′ 59. 20′ B-2

 出稅
 10:50
 北緯
 32° 25′ 14. 60′

尾根の西側には、モミなどの大樹が 立つ。このあたりで、折り返すつもり だったが美しい自然林の森に誘われる ように緩やかに登る。

國根三角点1280m

 蛸
 11:55
 頼
 131° 01′ 39. 2′
 B-2

 ・
 ・
 12:34
 は
 32° 25′ 54. 6′

図根三角点の傍ら、厚い落葉の上に 座して昼食を食う。歩き始めて程なく 挟まった尾根の行く手を巨石が塞ぐ。 左側を乗り越すと、防火帯の切り分け の奥に銚子笠の山頂が見えた。

K139(銚子笠) AⅢ 1494m ※再度GPS計測をする。

 蛸
 13:08
 軽
 131° 01′ 11.3′ B-2

 競
 13:17
 北衛
 32° 26′ 19.2′

復路は梅木鶴林道まで下り、単調な 林道を2時間余歩いて駐車した車に辿 り着いた。16:00 不土野峠で、殆ど同時に江代山を往復したA班と合流して帰路に着いた。

分水嶺踏査最終回のお知らせ (2005.11.20)

2004年3月、瀬の本高原から始めた分水嶺踏査も、今回残された最終区間を歩くことで終止符をうつことになりました。ながい間のご協力を感謝いたします。なお、残された区間は次の2ヶ所です。

- (2) K161花立山(1106m) から、K162槻 木峠(750m)に向かう花立山西北尾根 約1 \ の分水嶺線。
 - 2.5万図「槻木」「兔田」

『分水嶺を歩く』…(28)

平成17年11月20日(日)
A班 K148(湯山峠)~K147(江代山)分水嶺ライン
B班 K161(花立山)より北西約1Kmの分水嶺ライン
2.5万図「古屋敷」「槻木」「挽田」

参加者 加藤功一 (11771) A艦緒

石井文雄 (13852)

中根俊男 (14180)

村尾保義 (会 友)

本田誠也 (5421) B鴉鷸

田上敏行 (6659)

丸尾龍一 (11538)

加藤 明 (13854)

加藤百合子(会 友)

分水嶺踏査もフィナーレを迎えた。 日本山岳会員の平均年齢より高齢の熊本支部員にとって、些か荷の勝ちすぎる計画だと考えていたが、中核となる会員の尽力により此処まで漕ぎ着けることができた。加藤会員の手配通り、定刻8時に九州自動車道・山江SAに参加者全員が集合した。詳細な踏査打合せの後、9名が車3台に分乗して最初の起点、湯前峠を目指して出発する。9:38 湯山峠に到着… 先ず全員で田上会員が用意した「中央分水嶺踏査達成」横断幕を掲げて記念撮影をする。

(A班の記録)出発に先立ち、再度GPS計測をする。

K148(湯山峠) 952m ※国道388号線

 3
 第
 131° 5′ 20.50′ A-1

出発 10:05 北緯 32°20′44.00′

早速、分水嶺尾根の末端に取り付く。 スギ、ヒノキの植林地だが尾根筋は**踏** 跡も定かではない。小一時間の急登で 地図上の・1227m標高点らしい地籍図根 三角点に着いた。

地籍区根三角点 1217m

 到着
 11:00
 東経
 131° 4′ 46.60′ B-2

 出発
 11:05
 北緯
 32° 21′ 7.30′

右側に熊本/宮崎県境となる境谷があるはずだが、アセビなどの灌木とスズタケが密生した酷い藪漕ぎとなる。2時間余の急登で地図上の・1464m標高点に着いて、点名「津野」の三角点を探す。4人で手分けして探したが西尾根を50mほど下った場所で見つけることができた。分水嶺から外れているが、K点追加でGPS計測をする。

K1475(津野) AN 1437m ※丸型金属標

 銷 13:36
 軽 131° 4′ 23.80′ B-3

 出発 13:45
 北緯 32° 21′ 40.50″

ここから分水嶺上は、明確な切り分け道がある。携帯電話でB班に連絡し200m近い比高差を40分で登りきり終点の江代山頂に着いた。

 K147(江代山)
 AII
 1613m
 ※再度GPS計測をする。

 9
 第
 131°
 4′
 33.80′
 B-1

 出発
 14:35
 北緯
 32°
 22′
 13.60′

南側の鞍部まで引き返し、センツキ谷へ下る。九大演習林の林道に入る道を通りすぎて矢立開拓まで下ってしまう。B班に連絡して国道 388号線を湯・山峠まで折り返す… 陽も傾いた17時過ぎ、水上村役場でB班と合流した。

(B班の記録) 湯山峠は分水嶺上にあ るが、熊本/宮崎県境線は江代山南尾 根の・1464m 標高点から境谷となって 南東に下り、峠より北東側へ約1 製も 離れて国道 388号線に出る。江代山を 挟んで東側(宮崎県椎葉村)の矢立高 原も、西側(熊本県水上村)の朴の木 原も900mをこえる高原である。湯山峠 でA班を見送ったB班の5名は、車2 台に分乗して多良木町の槻木峠に向か う。槻木峠(トンネル)の 50m手前から湯前 飯盛林道に入る。台風被害で道路が崩 壊して全面通行止めになっているが、 行ける所までと林道分岐まで行き車を 置く。崩壊地は 15~6mほど道路が山際 まですっぽりと崩落していた。高巻き して越そうとしたが、そのままヒノキ スギの植林地を登り分水嶺に出た。

先月(10月29日)時間切れで引き返した ·932m 標高点に至り、再度GPS計測 をしてランチタイムとする。

·932m標高点 (熊本県多良木町) 軽 131° 00′ 15. 1′ B-2 銷 12:00 **出発** 12:35 t牌 32° 14′ 50. 6′ ※10月29日データーとの差異 北緯 32°13′59.7″ 分水嶺は逆落としの急坂となって東へ 下る。それも比高差 40m足らずで平坦 な鞍部に着く。北側は球磨川支流の久 米川内川の源流… 南側は槻木川の支 谷。ここから多良木町/湯前町の境と なる分水嶺は、南東に向きを変え花立 山頂へ延びている。湯前町側は自然林 (二燐) だが、多良木町側はヒノキ造林 地なっている。一時間足らずの登りで 傾斜が緩み、先行した田上会員が声を

挙げた。三角点についたらしい… 最後の登りにかかる辺りで、加藤夫人 が一抱えもありそうなブナの枯木に巨 大なサルノコシカケを発見した。一つ 二つではなく木の裏表に4、5個もつ いている。加藤夫人がそのまま腰掛け るほどの大きさ… 早速、ゴリラの腰 掛けと命名された。13:25 分水嶺路査 のフィナーレ… 花立山にゴールイン

 K161(花立山) A II 1106m ※再度GPS計例をする。

 9
 13:25 東経 131°00′47.20′B-2

 出発 13:50 北韓 32°13′48.50′

 ※GPSデーターは、前回2月20日と符合していた。

中央分水嶺踏査記録(熊林英部)

番号	路查年月日	データーNO	地名・山名	市町村名	水 系 E/W	酷人員
	2004		瀬の本高原 1027m	熊本県南小国町/大分県久住町	大野川(玉来川)/筑後川(小田川)	_
	3. 23		県道11号線 △IV 849m	熊本県南小国町/阿蘇市(産山)		
			レストラン「うぶやま」 805m	熊本県阿蘇市(産山)		
			萩の草/山鹿 ΔⅢ 804m		(志賀瀬川)	
			県道11号線「夢広場」 804m			
			E枚舎 820m	熊本県阿蘇市(一の宮町)		
2	3. 28	K090	立山牧野(山の神)AIV 794m		烟(烟)/削(點)	4
		K091	上井牧野(北山)AIV 780m			
			県道11号線(城山展望所上)798m			
		K092	古閑牧野(NTT無線中総所)808m			
3	4. 12	K0925	波野ヶ原 816m			6
		K093	坂迎(邶梨)△I 825m			
		K0935	卯の鼻分岐・831m			
		K094	国道57号線(坂の上) 790m	į	大野川(泉谷川)/白川(黒川)	
		K095	新波野 △Ⅱ 863m			
		K0955	新波野牧野 861m			
		K096	新波野牧野・881m			
		K097	上萩の久保(箱石峠) AIV 911m			
		K098	箱石峠(国道265号線) 873m			
4	4. 22	K099	箱石 AN 936m		大野川(山崎川)/白川(黒川)	6
		K0995	尾根分岐 1263m			
		K100	根子岳(輔)△Ⅱ 1408m	熊本県阿蘇市/高森町	大野川(河原川)/白川	
		K101	大戸の口 AN 914m	熊本県高森町		
		K102	大戸口(峠) 894m			
5	4. 25		國道218号線(大野原)605m	熊本県山都町大野	五ヶ瀬川/緑川(大矢川)	6
		K122	白石 728m	瓵		
			熊本/宮崎県境 1005m	熊本県山都町/宮崎県五ヶ瀬町		
		K123	一ノ瀬 △Ⅲ 1202m		五ヶ瀬川/緑川	
		K124	黒峰 AII 1285m			
6	4. 29		熊野 AIV 916m	熊本県高森町	白川/大野川(河原川)	7
			阿蘇高森ゴルフ倶楽部 ・931m		白川/五ヶ瀬川(吉尾野川)	
			大村越(山の神)・917m			
			態野原(八/久保)AIV 960m			
		K1055	河原 AN 923m			

番号	踏年用	データ-NO 地名・山名	市町村名	水系 E/W	斷人員
-	2004	K120 鼓ヶ原 AⅢ 620m	熊本県山都町大野	五ヶ瀬川/緑川(大矢川)	7
	5. 2	K119 菅 尾 AV 612m			
		K118 巻 山 AⅢ 628m			
		K117 上塩出 ※GPS計劃机			
		K116 狐 谷 AV 653m			
		K115 上差尾 ※GPS計劃机	:	五ヶ瀬川(上差尾川)/緑川	
		K114 山 造(猴)・763m			
		K113 巻口(調鵬之碑)AⅢ 823m			
		K111 崩土峠 870m	熊本県山都町・南阿蘇村	五ヶ瀬川(字谷川)/白川	
		K1105崩 土 AW 923m		五ヶ瀬川(津留川)/白川	
		K112 長谷峠 903m			
8	5.3	K107 清栄山 AⅡ 1006m	熊本県高森町	五ヶ瀬川(中島川)/白川	7
		K106 精栄山北峰 1015m			
		K1075黒岩峠 875m			
		K108 高森峠 AN 878m	熊本県高森町・山都町		
		K109 御成山・882m		五ヶ瀬川(柳谷川)/白川	
9	5.8	K1105崩 土 AN 917m	熊本県山都町・南阿蘇村	五ヶ瀬川(津留川)/白川	5
		K110 中坂峠(嶷11鴞)831m	熊本県山都町・高森町	五ヶ瀬川(柳谷川)/白川	
		K1095高森峠旧道 843m			
		K1097中 坂 AI 869m			
10	5. 24	K1275五ヶ瀬スキー場 1581m	熊本県山都町/宮崎県五ヶ瀬町	五ヶ瀬川/緑川	9
		K127 黒岩山 1582m			
		K126 小川岳 AI 1542m			
		K125 小川越 1106m			
		K1245トンギリ山 1253m			
11	6. 12	K128-1向坂山 AⅢ 1684m	熊本県山都町/五ヶ瀬町・椎葉村	五ヶ瀬川・耳川/緑川	7
		K128-2·1529m標点	熊本県山都町/宮崎県椎葉村	耳川/緑川	
		K128-3・1417m標点			
		K128-4天女ケ岩・1512m			
		K128-5・1529m標高点			
		K129 三方山 △1 1580m		耳川/緑川蘇流	
		K130 椎矢峠 1442m		耳川/緑川(内大臣川)	
12	7. 30	K133 国見岳 AI(杣)1739m	熊林県山都町・八代市(五家荘)	耳川/緑川(内大臣川)・球磨川	6
		※九州春梁山地の最高峰	/宮崎県推葉村	(川図川)	

番号	踏查年月日	データーNC	地名•	山名	市町村名	水	系	E/W	酷人具
13	2004	K136	椎葉越(球)1494m	熊本県八代市(五家荘)/宮崎県	耳川塊	訓() 辺	川)	8
	8. 22	K1355	鳥帽子岳(最	稿点)1697m	椎葉村	İ			サポート
		K135	烏帽子岳(3	角点)1692m	※分水嶺ではない				(3)
		K134	五勇山(顯線	i)1663m					
		K1335	小国見岳·1	.712m	·	·			
14	12. 19	K148	湯山峠・944	lm	熊本県水上村	一ッ瀬川(ケ	(川)/	球磨川	B班4名
		K147	江代山 💵	1606m	熊本県水上村/宮崎県椎葉村				
		K149	舟 石 紅	1018m					A班3名
		K150	二つ岩(土財	場)△I 1670m		- y瀬川/I	塘川(湯	訓)	
		K151	市房山 AI	1721m	熊本県水上村/宮崎県椎葉村・	-y劇l(t	豁)/球	၏(亂	
			※日本200名山		西米良村			<u></u> 加	
15	2005	K142	不土野峠	1084m	熊本県水上村/宮崎県推集村	耶(崎	1)/城	川(無川)	10
	1. 22	K143	小崎峠	1241m					サポート
		K144	小崎山 💵	1273m		İ			(5)
		K1445	川の口越	1183m		!			
		K145	御岳(顺口)	△ I 1326m					
		位置誤認	律野越(最低鞍部)	1240m	※分水嶺の津野越ではない				
16	2. 20	K157	横谷峠 🗓	665m	熊本県湯前町/宮崎県西米良村	ーツ瀬川(オ	秘川)/	球磨川	7
		K1575	県境尾根分岐	1116m	湯前町・多良木町/西米良村	İ		(都川)	オポート
		K158		1104m	熊本県湯前町/多良木町	大淀川(棚	圳)/球	磨川(養原	(2)
		K1585	仁原峠(はが	らとうげ)919m				M)	
		K159	湯/原山	1056m					
	Ė	K160	アクソ林道分岐	·859m		大淀川(槻)	加)/球	磨川(久米)	l []
		K161	花立山	△II 1106m				内川)	
17	2. 27	K0965	妻子ヶ鼻	•904m	熊本県阿蘇市	大野川(河	訓)/自	川(黒川)	1
		K117	上塩出	•642m		五ヶ瀬川/	訓(坎	刑)	(細)
18	3. 2	5	国語(語/被)	1549m	熊本県山都町/宮崎県椎葉村	即心地	鎔)/緑	川(水臣	1
		K1325	國岳(長谷登山)	1分岐)1670m					(藤)
19	1		西米良越()		熊本県水上村/宮崎県西米良村	->瀬 (1	5谷)/	球磨川(大	1 1
		ł	黒仁田	∆ I 1110m				11	A班6名
		K152	左重中尾	AN 1087m					
		1	牧良山	∆N 1002m	水上村・湯前町/宮崎県西米良村				B班5名
		K155	黒仁田越	·700m	熊本県湯前町/西米良村				

番号	路查年月日	データーNC	地名・山名	市町村名	水 系 E/W	酷人
20	2005	K131	高 岳 AII 1571m	熊本県山都町/宮崎県椎葉村	耳川/緑川(内大臣川)	5
	4. 14	K132	門納道分岐 1519m -			
	}	K1325	電板分岐 1581m			
21	4. 29	K139	銚子笠 △M 1489m	熊本県水上村/宮崎県椎葉村	耳川(不士野川/球磨川	9
		K1385	県分越 1457m			A班6名
		K138	白鳥山 △I 1643m	熊本県八代市・水上村/椎葉村	耳川(唐谷)/球磨川	
		K1375	御 池 1560m	熊林県八代市(五家荘)/宮崎県		
		K137	峰越林道(県境峠) 1486m	椎芯寸		
		K140	魚 帰 AN 1154m	熊本県水上村/宮崎県椎葉村	耳川(不士野川)/球磨川	B班3名
		K1405	平 畑 AN 1093m			
		K141	・1242m標高点			
22	4. 30	K162	槻木峠 755m	熊本県多良木町	大定川(槻木川)/球磨川	9
		K163	黒原山 AI 1019m			A班3名
	1	K1615	槻 木 △Ⅳ 897m			B班6名
		K156	横谷山 · 908m	熊本県湯前町/宮崎県西米良村	一ツ瀬川(板谷川)/球磨川(都	
	İ				M)	
23	5.3	K165	小野(この)AⅡ 873m	熊本県あさぎり町/多良木町	大淀川(平谷川)/球磨川(岡元	1 1
			·855m標高点		谷)	A班4名
	i	K164	大塚林道 725n		大淀川(堀切谷)/球磨川(岡元	
:					谷)	
			山の神 988m	熊本県あさぎり町	大淀川(岩瀬川)/球磨川(免田	B班7名
			小白髪岳 All 1184m	7.1 - 1	川	
24	5.4		三池神社 1362m	熊本県あさぎり町	大淀川(岩瀬川)/球磨川(免田	1 -
			白髪岳 &[(杣)1417m	į	N)	サポート
			国見山 ·1228m			(5)
			八ヶ峰 All 982m		Y Maria Allahari Na akan ka	
				熊本県あさぎり町/宮崎県えびの市		
25	6. 18	K166	小白髪林道分岐 832m	熊本県あさぎり町	大龙川(岩瀬川)/球磨川(兔田	1
			・1018m標高点			サポート
		171.00	•1123m標高点			(1)
	10.00		三池神社~猪子伏	Ab 1.04 (1) 1 (AL AB PROPRIO)	Writz Hans Lange	
26	10. 29	_	左重中尾 AN 1087m	熊本県水上村/宮崎県西米良村 ・	一ツ瀬川(竹元谷)/球磨川(大	1 1
			※市房山南西尾根(分水嶺)を歩く。		平川)	サポート
		K151	協山 AI 1719m	熊本県水上村/宮崎県西米良村		(2)

番号	踏查年月日	7-9-NO	地名・山名	市町村名	水系 E/W N MM MM MM MM MM MM MM MM MM MM MM MM M
26	2005	K1615	槻 木 △N 897m	熊本県多良木町	大淀川(槻木川)/球磨川(久米川B班2名
	10. 29		·926m 標高点		划(1)
			図根三角点(地籍)・ 898m		
			·932m 標底		
27	10 . 30	K145	御 岳 AII 1322m	熊本県水上村/宮崎県椎葉村	耳川(小崎川)/球磨川(無帰川) 5
			津野越 1245m		A班3名
			·1322m 標高点		
			馬口岳編走路分岐 1589m		一ツ瀬川(矢立川)/球磨川(魚帰
			江代山 △I 1605m		11)
			魚 帰 AN 1143m	熊本県水上村/宮崎県椎葉村	耳川(不土野川)球磨川(横才川)B班2名
			·1168m標高点 1153m		
		K140	上水(三角点なし)1229m	,	
			·1274m標高点		
			図根三角点 1280m		
- 00	11 00		銚子笠 △II 1494m		Worth C. L. L. L. Cenden L. Col.
28	11.20		湯山峠 952m	熊本県水上村/宮崎県椎葉村	一ツ瀬川(矢立川)/珠磨川(湯 9
	i		地籍区根三角点 1217m		山川
			津野AN 1437m※分水嶺ではない		
			江代山 AI 1613m ・932m 標点	徐七月夕白十町	十分11/14十四//14年11/1/14年11/1/14日初日初
			75.32m	熊本県多良木町 熊本県揚前町/多良木町	│ 大淀川(槻木川)/球磨川(久米B班5名 │ 川内川)
		V101	1₽7711	熙华宗杨时叫/ 夕及小叫	לותנאות
				· · · ·	
	L		L		<u> </u>

中央分水嶺路香表(熊本支部) 2004.3.23-2005.11.20

氏名 会員番号 1 2 3 4 5 6 7 8 91 01 11 21 31 41 51 61 71 81 92 02 12 22 32 42 52 62 72 8 回数																																	
氏	名	\perp	会員番	_	1	2	_	-	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
菅	隆雄	-	44	_			0	0		0				0		0	0																6
本田	誠也		54	_	Ο	0	0	Ο	0	0	0	0	0	0	0	0	О	О	Ο	0	0		0	О	0	0	0	0	О	0	0	0	27
田上	敏行	_	66	59					0		0	0					0						0				0	0				О	8
松本	莞爾		84	11													0													0			2
廣永	峻一	-	100	80				О									О	0	О									О					5
藤本多	加志	ā	100					0					0	0													0	0					5
丸尾	龍一	1	115						0		0	0											0									0	5
加藤	功一	4	117	-	Ο	0	0	O	0	0	0	0	0	0	0	0	О	О	0	0		0	0	0	0	0	0	0	Ο	0	0	0	27
加藤百	合子		숲	友	О	0	0	О		О	0		0	0	0			0	0	0					0	0	0					0	16
龍田	成	Ì	121	00																			0										1_
能田	直子		121	01															Ο				0										2
永谷	誠一	-	129	09																					0	0	0	О					4
石井	文雄	É	138	52					0						0	0		0	Ο	0			0		0	0			0	0	0	0	13
加藤	明]	138			0	0				0	0		0	О	0	О		Ο	0			0	О	0	0	0	О		0	0	0	20
安場	俊郎	_	138	89					0								О	0	0				0		0	0	0	О			0		10
緒方	<u>隆</u>	E	141		-																				0	0	0	0					4
中根	俊男		141	80	0	0	0			О	0	0	0	0	0	0							0	0			0	0				0	17
松岡	栄治		숲	友						0																							2
鎹	正博	Ì		友							0	0								0			0										5
椎葉	幸介	<u>' </u>		友										0	0			0									0						4
村尾	保義	E	숲	友															0						0	0		0				0	6
O DIA EL	男者同伴																																
					5	5	6	6	6	7	8	_ 7	5	9	_ 7	6	8	_ 7	10	7	1	1	11	5	9	9	11	11	3	5	5	9	189

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺路査)の山行報告書

Co. (P) also de dep	late to	/A\5744	1. et 29	m L	Ele					てください。(は記入し	
(1) 担当支部:	熊本	(2)記載			製	<u>17</u>		番		1	事務局主			mak	
分水嶺区分	K161(花立山。	より礼四へ	·神y I KIY	1			(3)	山行	<u> </u>	2005年	11月	20H	(4)天候	PP	
/m\abanderc.dr	ナルルでムミギロ						44-4	ه_ و	面昌丘	な センレッくん	2日平日				
本田 誠也	および会員番号 5421	加麗百	(会学	会友			7/1	<u> </u>	安贝风	名および会	4月世7				
田上、教行	6659	/AL/AR (C	I D I	XX						 				 	
丸尾 龍一	11538			 			 			 				·	
加藤明	13854	+		 -						+				 	
730/74	1.000,		計	1		5名	-						à l		
		'					-								
(6)山行記録・	位置確認(出発点	・ピーク・劇	· 到達』	気など	、主	要ポイン	ト(二日	見して	() 所要	時間·道の)状況				
コース概略:	湯前飯盛林道名)			
アプローチ:	熊本市~人吉市	市~免田~	-K162	槻木	*~	湯前飯盛	林道	にフ	、り約2k	m林道分	岐に駐車				
地点コード	地点名	2.5万	分の1		経	度E			度N	高度	到着	出発	道の	(8)~(
地景コート	AU 371 12	地形	図名	度	分	秒	度	分	秒	m	時刻	時刻	状況		
歩行開始点	湯前飯盛林道	免田										10:40			
分水嶺到達点	多良木町有林	11										11:30			
	•932m標高点			131	0	15.10	32			932.0	12:00			(8)	
K161	花立山	11		131	0	47.20	32	13	48.50	1,106.0				 	
	鞍部				-	ļ	1-	1_			14:35			 	
	·932m標高点	"		_		-	-	<u> </u>		932.0	14:50	15:00	B-2		
				1	<u> </u>	ļ	1-	-			 			 	
/(J, W 44 54 54 5	4 0 + m-++	Am		+	-		+-	+	<u> </u>	+	15 05	15 15	D 0	+	
分水嶺離別点 歩行終了点	多良木町有林湯前飯盛林道	免田 "			-	 	+-	-	 	+	15:05	15:15	B-2 B-3	+	
李门轮」从	一周的歌歌外 是	- 111			1		1	1		<u> </u>	総歩行時			5	
											46-37 1 1 PM	mi / Mr Miknali	司を除く).		
(7) 三角点の代	位置と保存状況														
上記(6)の地点コート	+		-1.11	保	吞	44.000				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
記入してください	点名	等級	級 │ 方位 │ 「株式 │ 特記事項												
K161	花立山	3	S		好	前回計	则清。	74 F	9度デー	ターをとる	5				
										·					
(a) 1 = #===	N TELEFORM LACINATES		h. de												
(8)人工施設(D現況および地形 「峠 湯前飯盛林」	とこの名は	星水晶	有無可	4/	海海北	34711	0 1 3	12=0	7					
	「峠「国調多角点」					700111110	J12011	נשכום	<u>ሪ</u> ማ <u>ጥ</u> ለ						
16-16 M - 108-71		浄江シし	По.Щ.	מיוניתו	*										
															
ļ															
												-			
					_							-			
(9) 水および桶	生に関連した特別	7事項													
分水機の北側	『(球磨側)は自然	木(二次林)南側	(模木	侧)	はヒノキ	桂林								
L															
(10) 7 m lth m	LA STATE OF														
(10)その他の	特配争項 【間は花立山~・9	20	FAA	J. 1813	1 I	/ Ja # 51									
・プロの知道と	ZIMITAGATM ~ . A	SZM標准	別のガ	小領	 R r	一日									
					_										
ļ — — — — — — — — — — — — — — — — — — —															
(11)宮直の添	付:(有りの場合):	は、軍事	説明を前	2.XL	7	ださい)									
写真説明		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			= 1										
	態成、全員スナップ	•					-								
・花立班のスナ															
									-						



・分水機踏査達成、全員スナップ



会 員 近 況

5421 本田誠也

昨年は中央分水嶺の踏査と、新日本 山岳誌の発行を、皆さんのご協力のお 陰で無事に果たすことが出来ました。

今年は早いもので傘寿(80才)になります。体力、気力の老化をひしひしと感じています。スローライフの山登りを続けてゆきたいものです。

12909 永谷誠一

いよいよ80の大台となりました。 おかげ様で健康に恵まれ、年毎に山へ の想いが強くなって参りました。昭和 21年に九重山群に親しみ今日まで山 に接することが出来ました。昨年も毎 月の山行は無論のこと、4月には熊野 奥駈道の一部を歩き、5月は中国の黄 山に登り、7月には世界自然遺産に登 録された知床の羅臼岳、斜里岳、雄阿 寒岳に親しみ、8月は裏銀座ルートよ り槍をつめ、10月は紅葉を求めて北 信の信越トレイルを訪ね、妙高山、火 打山と足を延ばし、新潟南部の山を楽 しんで来ました。今年も熊野古道、屋 久島愛子岳、モッチョム岳、八ケ岳、 尾瀬の山々を訪ねることにしています 。「日々是青春」をモットーとして。

10185 神谷平吉

この所、少々体調勝れず、おまけに 家内も左足を痛めているものですから 鳴かず飛ばずと言った所です。

天気の良い休日には、近郊のの里山 を訪ねる位が関の山、本当にお恥ずか しい限りです。

中央分水嶺の調査を見事に御達成さ

れた由、心よりお祝い申し上げます。

10008 馬場博行

御無沙汰ばかりで申し訳ありません。 11月までヒマラヤイド、ポータと しんでもした。ガイド、荷物を さいかがない。 重いいがでした。 でいれていいがでした。 でいれていいがでする。 での光景とはおもえない。 での光景とはありでした。 の光景とはおもえない。 での光景とはおもえない。 での光景とはおもえない。 での光景とはおもえない。 での光景とはおりでした。 での光景とはおりでした。 での光景とはおりでした。 での光景とはないがでする。 はないがではないがではないがではない。 での地点を でいれている。 での地点を でいれている。 での地点を でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいれている。 でいる。 実現したら、是非**遊びに来て**ください。

11856 太田章雄

体を悪くし、現在は自宅療養の注です。

13845 加藤 明

12/20、柞島、往生に行きました。下から見た感じでは雪が少し見える位でしたが、登ってみたら30cm位、吹き溜まりでは腰までの所もありました。次の機会の為に、散歩は毎日しております。

8605 門脇愛子

昨年は腰痛、膝痛をかかえながらも 比較的体調はよく、シルクロード、中 国の長白山、南アフリカ(ビクトリア の滝、サファリ、喜望峰等)と3回海 外旅行が出来ました。

又、国内では、熊野古道と若狭街歩

道歩きをいたしました。それぞれ天気 に恵まれ、良い経験、良い想い出とな りました。支部の山行には参加出来な」 くて申し訳ありませんでした。

8411 松本完爾

17年からサンデー毎日の日々で、 のんびりとした生活をしております。 土日を除く平日の山行で静かな野山を 満喫しています。

18年は、ある程度目的や計画を持って日々行動していきたいと思っています。

10080 廣永峻一

昨年は、1月ミャンマーを皮切りに、安比、佐渡、白山、北海道、越後、 奥日光、高野山、大台原、信州を回り 生まれて初めて熊棚を見て感動しました。日本ユニセフ、SQのカメラマン としてのボランチア活動も楽しくやら せてもらっております。

H17年度の締めっくくりとして、 朝日新聞西部本社の「花のカレンダー」の九州全体の配布とな感謝、感謝の 一年でした。来年も頑張ります。

会友 中村恵二

昨年は、公民館の山行で会員の一人がスズメ蜂に襲われ、ヘリを呼び、病院へ搬送する経験をしました。太目の男性でしたが、一匹の蜂にダウンとはいえ笑い事ではありませんね。5日間入院し、2ヶ月後に復帰し、元気に山行をしておられます。

会友 松岡榮治・啓子

12月28日、墓参りの後、お祭り 広場(立田山)まで足を伸ばす。途中 の池に薄氷がはり、小鳥が一羽びょん びょん飛びながら、何かを啄んでいた。

1月1日、前夜の雨も上がり、晴れ 模様。急いで立田山の日当ての場所へ 行く。10人位の人が既に、思い思い の場所で日の出を待っていた。やがて 山の端が赤くなり、真っ赤な太陽が出 てきた。良い年でありますように祈る

14053 小倉伸一

大晦日から元旦にかけて、九重坊ケッルにで雪上テント泊忘年会を6人まりはて9人、6人あわせて9人、6人あわせて9人を変会用にして、泊まりますがりまります。大いに盛り上がりました。大野頃からは、4時頃からはでからが、4時頃からはでからりです。大野頃からはでからり、4時頃からはでからり、4時頃からはでからり、4時頃からはでからります。三俣山の美島もとでも表情らしいものでした。見えるとても素情られています。

4439 菅 隆雄

日々健康のため、山歩きに精い出しています。2005年中は、体調も良く、北岳、剱岳など45座近く登頂することが出来ました。

これからも、体の許す限り安全登山 を心掛けて、楽しい山旅を続けて行き たいと思います。

会友(12100) 能田 成 昨年の山登り、前半はまかまかの点 数。後半は全くダメ、大反省。今年の 目標、最低30峰。

11771 加藤功一・百合子 皆さんと一緒に行った足掛け2年の 中央分水嶺踏査も、昨年11月20日 をもって終了し、やりとげてホッとし ているところです。

山も主なものとして、5月の安達太 良山、磐梯山、吾妻山(福島県)、7 月の韓国岳〜獅子戸岳〜新燃岳〜中岳 までの縦走と高千穂の峰。10月の木 曽駒ケ岳、甲斐駒ケ岳、仙丈岳、11 月の関西支部大会に参加して、高野山 ~九度山駅まで25km歩いたりしたこ とでした。甲斐駒や仙丈や高野山の見 事な紅葉が目に焼き付いています。他 の山行として、目丸山(雪踏み)、多 良岳(登山道が凍り何度も滑った)、 岩宇土山(福寿草が見事でした)、二 上山、諸塚山(石楠花、みつばつつじ あけぼのつつじ)、一の峰、二の峰、 地蔵峠、冠ケ岳(マツムシソウ)、鞍 岳、ツームシ山、鶴見岳、八方ケ岳と 作島岳、往生岳は雪がすごく深い所で は腰まであった。他にトレーニングと して毎日、近くの平尾山へ、時々二ノ 岳、三ノ岳、小岱山へ登りました。今 年の初登りは、元旦に地元の山、岩野 山から初日を拝みました。

13889 安場俊郎

週一回の山行を続けています。 分水**嶺路査、あんなに必死に地図読み** したのは久し振りで、いい思い出にな りました。

今年は、晩秋のキノコの発生が遅く

もう一回行こうとしたら、雪が降って 行けずじまいでした。来年も、ボチボ チの山行を続けます。

9649 鶴田佐知子

今年は、100周年の東京、九州ブロック、関西ブロックに参加し、忙しくもあり、楽しい一年でした。

14213 原田榮作

ベテランの方々の中に素人がお世話になりますがよろしくお願いします。 山登りの技術も、山に関する知識もありませんが、中高年の登山ブームにあ やかって夫婦で楽しい山登りをしています。

9328 川端浩文

近年山行回数がなかなか増えません。 多趣味のせいもあって好みが移ったの と、体力の衰えもあるのでしょう。

久住3回、黒岳1回、後は二ノ岳、 三ノ岳縦走、金峰山へ数回のハイキン グ等で平成17年は終わりました。少 なくなった分、里山作りに精を出して います。

8190 工藤文昭

一昨年11月に急に体調を崩し、昨年約3ケ月の入院。それまで健康、体力には自信があり、病院に行くこともなくやりたい放題の生き方をしてきました。それが体調を崩す原因になったようです。今年は健康の大切さを自覚し、体力を取り戻し、又、山登りを少しずつ始めたいと思っています。

河上洋子

先月末に転居の何やかや、これまで 身辺の日常用品が行方不明になったり で落ち着かない生活状態でおります。 今日は日本山岳会の退会届などでご面 倒おかけしました。永い間、本当にお 世話になりました。山のお仲間は、世 の常の友人と異なり、私にとってはか けがえのない方々で、本当はこの仲間 に別れたくないため、グズグズしてい たのが本音です。 年とともに足も前程ほどではなくなりましたことと、何の因果か今になったもう一つの団体の責任者の仕事が特になったことで、この辺縁をはい決めました。本田様をはじめ、皆さまに呉ぐれもよろしままによったも何かのおりない。ま本での気のおけないったにはお誘い下されば喜んで伺います。

会 務 報 告

○ 第15回中央分水嶺踏査 (日時)平成17年2月27日 (場所)妻子ケ鼻~上塩出(再踏査) (出席)本田

- ◇ 第16回中央分水嶺踏査
- (日時)平成17年3月2日
- (場所)高岳分岐~門割尾根分岐
- (出席)加藤功
- ※ 道路崩壊で不通の内大臣林道をマウンテンバイクを使用して、 国見岳〜椎矢峠の踏査に挑戦したが、積雪のため一部の区間 を残して時間切れとなる。
- ◇支部報第15号の発行(平成17年3月31日)
- ◇ 第17回中央分水嶺路杳
- (日時)平成17年3月21日
- (場所)西米良越~左重中尾(K152)および西米良越~黒仁田越
- (出席) A班 能田夫妻 石井文 安場 中根 鎹 B班 本田 田上 丸尾 加藤功 加藤明
- ※ A班は西米良越~市房山頂を目指すが時間切れでK152まで B班は西米良越~横谷峠を目指すが、牧良山からの下りで尾根を 間違え、再び牧良山頂直下まで登り直して踏査したためで黒仁田 越で時間切れとなる。
- ◇ 第18回中央分水嶺踏査

(日時)平成17年4月14日

(場所)椎矢峠~雷坂分岐

(出席)本田 加藤功 加藤明 中根夫妻

※ 内大臣林道が不通のため、緑仙峡湯鶴葉から椎矢峠を経由して踏査 したが、予定より時間がかかり踏査を終えて稲積山登山口に帰り着 いたのは午後9時を過ぎていた。

◇ 第19回中央分水嶺路查

(日時)平成17年4月29日

(場所)29日 峰越林道峠~白鳥山~銚子笠~不土野峠

(出席) A班 加藤功 永谷 石井文 安場 緒方 村尾 P班 本田 加藤明 加藤百

※ 不土野峠の熊本県側が道路崩壊のため不通となっていたため、**獨山峠** から椎葉村を経由して不土野峠へ至る。全員で銚子笠に登ったあと 北上するA班(銚子笠〜峰越林道峠を往復)と南下するB班(銚子笠〜 不土野峠)に分かれて踏査。その夜は国道265線の飯干峠で幕営。

◇第20回中央分水嶺踏查

(日時)平成17年4月30日

(場所)横谷山~槻木峠~黒原山

(出席) A班 加藤功 永谷 安場

B班 本田 加藤明 加藤百 石井文 緒方 村尾

- ※ 前夜の幕営のあと全員で槻木峠へ。ここでA班(槻木峠〜黒原山)とB班 (槻木峠〜K1615および横谷峠〜黒仁田越)に分かれて踏査。
- ◇ 第21回中央分水嶺踏査

(日時)平成17年5月3日

(場所)黒原山~小白髪岳

(出席) A班 加藤功 永谷 安場 緒方

B班 本田 田上 松本 藤本 加藤明 中根 椎葉

- ※ とりあえずK点の計測を先に終らせようとの計画で、連休を利用して現地 で幕営しての踏査となった。小白髪林道分岐からA班(黒原山往復)とB班 (小白髪岳往復)に分かれて踏査のあと白髪岳北麓のビハ公園キャンプ場で 幕営。
- ◇ 第22回中央分水嶺踏査

(日時)平成17年5月4日

(場所)白髪岳三池神社~八ケ峰南麓県境林道

- (出席) 踏査班 本田 加藤功 永谷 加藤明 安場 緒方 椎葉 サポート班 田上 松木 広永 藤木 中根
- ※ 全員で白髪岳に登ったあと、踏査班は八ケ峰南麓へ。サポート班は狗留孫 林道が不通のため人吉からえびの市へ迂回して終了点の川内川上流へ進み 県界の両国橋で17時に再会する。

◇ 通常総会および支部長会議

(日時)平成17年5月21日

(場所)東京都千代田区 弘済会館

(出席)工藤

◇ 支部総会

(日時)平成17年5月22日

(場所)熊本市国際交流会館

(出席) 本田 田上 工藤 松本 菊池 門脇 川端 鶴田 広永 加藤稜藤本 池崎 丸尾 永谷 安場 緒方 中根

※ 平成16年度事業報告、決算報告および平成17年度事業計画、予算案 役員改選 山岳会創立百周年記念関連事業

平成17年度役員 支部長

工藤(重任)

副支部長

神谷(重任)

常務委員

田上(重任)

委員

松本(新任) 鶴田(再任) 広永(重任)

加藤功(再任)

監查

藤本(重任)

支部顧問

西沢 本田

総会終了後、同館内のレストラン「シンカム」で懇親会を行った。

◇ 北九州支部創立5周年記念式典

(日時)平成17年5月28日~29日

(場所)福岡県 英彦山アドベンチャーセンター

(出席)田上 中根

- ※ 28日は記念式典、懇親会、英彦山山開き前夜祭が催され、29日は 英彦山頂での山開き神事に参加した。
- ◇ 第23回中央分水嶺踏査

(日時)平成17年6月18日

(場所)小白髮岳~白髮岳三池神社

(出席)本田 加藤功 石井文

- ※ 踏み跡もないヤブコギの続く難コースで、8時間の苦闘の末に踏査を完了。
- ◇ 山岳会創立百周年記念九州地区大会

(日時)平成17年7月16日~17日

(場所)宮崎県霧島えびの髙原

- (出席)西沢 菅 本田 田上 工藤 松本 鶴田 広永 藤本 池崎 丸尾 加藤夫妻 加藤明 安場 中根
- ※ 16日は記念式典、九州五支部の活動報告、記念講演(石井久による霧島の自然紹介)、懇親会が行われ、17日は、霧島縦走、韓国大浪池、池巡りの三コースに分かれて記念交流登山が行われた。

- ◆ 新入会員(7月22日入会)中根俊男 会員番号14180
- ◇ 支部長、支部事務局担当者会議
- (日時)平成17年9月10日
- (場所)東京都千代田区 山岳会ルーム
- (出席)工藤 田上
- ※ 山岳会の組織改革、創立百周年記念事業の進ちょく状況
- ◇ 創立百周年記念式典ならびに記念晩餐会
- (日時)平成17年10月15日
- (場所)東京都港区 新高輪プリンスホテル
- (出席)工藤 田上 鶴田 広永
- ※ 記念式典には国内外から1030名が出席し、百年の伝統と格式にふさわしい式典が催された。祝賀晩餐会には皇太子殿下をはじめ国内外からの来賓54名を迎え、総勢977名の盛大な祝宴が挙行された。
 - 翌16日には懇親山行が奥多磨の景信山で行われた。
- ◇ 第24回中央分水嶺路查
- (日時)平成」7年10月29日
- (場所)市房山南西尾根および槻木峠~花立山
- (出席)
 A班
 加藤功
 石井文

 B班
 本田
 加藤明
- ※ A班は市房山頂から南西に延びる尾根を踏査、前回踏査したK152 (左重中尾)から猛烈なヤブコギの急斜面を約3時間で市房山頂に辿り つく。B班は槻木峠から花立山手前の932m標高点まで踏査。その 夜は市房山キャンプ場のロッヂに宿泊。
- ◇ 第25回中央分水嶺踏査
- (日時)平成17年10月30日
- (場所)川の口林道~江代山および不土野峠~銚子笠
- (出席) A班 加藤功 石井文 安場 B班 本田 加藤明
- ※ 全員で不土野峠へ着いたあと、A班は南(御岳〜津野越〜江代山)、B班は北(不土野峠〜K140〜銚子笠)に分かれて踏査。
- ◇ 新入会員(10月31日入会)
 原田栄作 会員番号14213
- ◇ 森林保全巡視員委嘱状交付式 (日時)平成17年11月1日
- (場所)能本市 九州森林管理局

- (出席) 松本 鶴田 広永 加藤功 永谷 石井文 加藤明 小倉 緒方 中根 田上
- ※ 以上の出席者のほか阿南誠 安場 石井久の計14名に委嘱状が交付された。
- ◇ 第21回宮崎ウエストン祭
- (日時)平成17年11月3日
- (場所)高千穂町五ケ所高原三秀台
- (出席)佐藤 本田 石井久 田上夫妻
- ◇ 山岳会創立百周年関西ブロック大会、関西支部設立70周年記念式典
- (日時)平成17年11月5日~6日
- (場所)和歌山県 高野山
- (出席)鶴田 広永 加藤夫妻 松岡夫妻 安場
- ※ 5日は高野山大学で記念式典と「日本の登山文化の原点を探る」というテーマで 二つの講演「河口慧海の道を追う」「役行者と修験道」があり、夜は宿坊の遍照光 院で懇親会が行われた。6日は櫝上伽藍から九度山まで記念山行があった。 全国13支部から140名が参加。
- ◇ 第26回中央分水嶺踏査
- (日時)平成17年11月20日
- (場所)湯山峠~江代山および花立山
- (出席) A班 加藤功 石井文 中根 村尾
 - B班 本田 田上 丸尾 加藤明 加藤百
- ※ 分水嶺路査の最終回 湯山峠で路査達成の記念撮影のあと、A 班 (湯山峠~江代山)と B 班(9 3 2 m標高点~花立山)に分かれて路査。
- ◇ 平成18年新年晚餐会
- (日時)平成18年1月14日
- (場所)熊本市花畑町 坐・和民
- (出席) 菅 本田 田上 工藤 松本 門脇 川端 鶴田 広永 加藤稜 池崎 丸尾 加藤夫妻 永谷 安場 小倉 緒方 能田 松岡夫妻 原田
- ◇ 支部長、事務局担当者会議
- (日時)平成18年2月25日~26日
- (場所)山梨県富士吉田市 富士研修所
- (出席) 松本(代理) 田上
- ※「山岳会の新たな100年に向けて」をテーマに、当面の運営方法、目標 と課題、現状と課題/問題点について活発な意見交換がなされた。
- ◇ 能田会員送別会
- (日時) 平成18年3月21日
- (場所)中華料理「紅蘭亭」

(出席) 能田 西沢 池崎 本田 田上 加藤功、百合子 阿南 藤本 丸尾 加藤明 石井文 松本 廣永 工藤

熊大能田教授が退官により、京都に帰られる事になり 都合のつく者でささやかな会を開いた。奥様は、京都 に帰る準備のため帰宅されておられて欠席だった。

編集後記

☆ 私は病に倒れ、昨年1年間何も出来ずに終わりました。日本山岳会創立100周年記念行事目玉の一つ、北海道から鹿児島までの日本列島中央分水嶺踏査にもだだの1回も参加出来ず、心が痛みました。昨年11月の踏査をもって全区間の踏査は無事完踏出来ました。本田会員の貴重な報告書を読んでみると、そのご苦労が充分にうかがえます。本田、加藤両会員を中心に、多くのご協力をいただいた会員の皆様に心からの感謝と御礼申し上げます。

☆ 又、もう一つの100周年記念事業となった「日本山岳誌」も昨年11月に上梓出来た。これは平成10年の本部理事会での新版作成決定から8年の歳月をかけて、北は国後、択捉から、南は沖縄の島々まで網羅した内容となっている。執筆は全国25支部がかかわり、熊本支部でも、71山、11名の会員が実際山に登り、書き上げ、これを本田会員が整理されて、でき上がったものである。高価ではあるが、なかなか立派な出来栄えである。調査、執筆中の苦労が報われ、嬉しかった。

☆ '50年のフランス隊の劇的なアンナプルナ I 登頂に始まり、'53年イギリスのエベレスト、'56年の日本隊によるマナスル登頂等に心踊らせ、登山ブームは起こりました。私の登り始めもこの頃です。先輩諸氏のお元気な登山に刺激されまだまだ頑張らねばと思います。果てしない夢と行動力があってこそ・・・。たが、どこか内面の強さがうかがえる方でした。美味しそうに酒を呑まれる姿が彷

#してきます。ご冥福をお祈りします。合掌

□ 現在の日本山岳会会員数は今年1月現在5,788名。02年から会員数は減

少傾向にあり、退会、除籍者、物故者の合計が、入会者の数を上回り、この3年間で、-44名、-76名、-93名と減員は続いております。平均年令も64才と高く、今後の活動とも合わせて大きな問題となっています。幸い、本支部は、昨年の38名から41名(別に会友12名)に増加し、更なる入会の動きもあります。今後の会の活動、頑張らねばとつくずく思います。何かやりましょう。

★ 本会報原稿をお願いしましたところ、多くの方からご協力いただきました。編集する上で、大変勝手なお願いですが、文書の体裁(1行37字、39行)をお守りいただくと大変助かります。(手書きの方はこの限りではありません)。又、どこそこの山に登っただけでなく、一つの山の登山記録を出来るだけ詳細に書いていただきますと、いい記録として残ります。ご協力の御礼とお願いまで。(工藤)